

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	アジア史						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバ-	Z52290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	中国とその周縁の歴史を概説する。						
授業の概要	アジア地域の古代文化の成り立ちからペルシア、インド文化への展開を概括する。その後、古代から近現代にいたる中国や中華世界の周縁に位置した日本、朝鮮、ベトナムから見た中国像はいかなるものであったか、また中国の社会と文化を検討する。東アジアと日本の交流の歴史を時系列に学ぶ。						
到達目標	中国を中心とした東アジアの歴史を学び、東アジアにおける日本の立場を再認識できる。						
授業計画	第1回 漢字世界の拡大と中華意識 第2回 『日本書紀』が成り立たせる「中国」 第3回 中華世界の変貌 第4回 朝鮮史から見た明清中国 第5回 ベトナム史から見た中国近現代 第6回 中国史にみる周辺化の契機と展開 第7回 ベトナム史と中国史 第8回 東アジア冊封体制と複数の中華 第9回 儒教とその真理性 第10回 都市と農村 第11回 女性史の観点 第12回 華僑 華人 第13回 環境と治水の歴史 第14回 中国史の読み方 第15回 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：日頃から、東アジアに関する新聞など目を通しておくことを希望する。（学習時間：週一回） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：週90分）						
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 論述式のテストと小テストで評価を行う。（試験70% 小テスト30%） フィードバックの方法 テストの評価後は、添削したものを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	歴史や東アジアの情勢などに興味を持って臨むことを期待する。 授業回数の3分の1以上欠席した人は、原則単位認定を行わない。 授業中に、他の受講者の迷惑になるような行為を起こす場合、途中退室を求める。（欠席扱いとする）						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	宮崎市定『アジア史概説』中公文庫、ISBN : 978-4122014015 濱下武志、平勢隆郎『中国の歴史』有斐閣、ISBN:978-4641121911
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	映像と大衆文化／比較文化IIA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバ-	A32030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	角川映画を中心とした1980年代日本映画を概観する：大衆からオタクへ						
授業の概要	平成の時代は幕を閉じたが、この時代は実は昭和末期＝1980年代の文化に大きく影響を受けてきた。日本映画界を見ると、1960～70年代に従来の製作・配給システムが崩壊し、やがてオタク文化が花開いた1990年代以降の平成時代へ至るが、その間の移行期＝1980年代には、新たな人物・現象が数多く登場した。本講義では、この時期にヒットした角川映画に着目し、数々の角川作品を通じて、今日私たちが知るサブカルチャーの原点を理解したい。						
到達目標	(1) 角川映画をはじめとする日本映画の歴史や特徴を理解する【知識・理解】 (2) 日本映画の流れの背景にある、多様な文化の変容を把握する複眼的視点を養う【態度・志向性・汎用的技能】 (3) オタク文化・メディアミックスの原点を理解し、現代社会の基礎を身に付ける【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 日本映画の歴史と1970年代の日本映画の状況 第2回 1980年代の日本映画：角川映画とメディアミックス 第3回 角川映画の代表作と社長・角川春樹 第4回 角川映画を代表するスター：松田優作 第5回 1980年代のアイドルたち 第6回 角川映画を代表するアイドル①：薬師丸ひろ子 第7回 角川映画を代表するアイドル②：原田知世 第8回 角川映画を代表する映画監督：大林宣彦 第9回 日本映画と地縁社会/地域社会 第10回 角川映画とアニメ 第11回 角川書店と徳間書店：宮崎駿の世界観 第12回 1980年代のサブカルチャー 第13回 角川春樹時代の「終焉」 第14回 新社長・角川歴彦の登場と新たなメディアミックス 第15回 1990年代の日本映画へ：北野武の登場 キーワード：1980年代、角川映画、サブカルチャー、メディアミックス、アイドル、オタク						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaを活用して各回授業のテーマに沿った予習を行い、授業にのぞむこと。可能であれば当該映画作品を事前に見ること（学習時間2時間） 授業後学習：レポート作成に役立つようにmanabaを通じて授業で取り上げた内容を整理し、理解を深めること。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回の授業内で映画の一部をお見せする。また、毎回リアクションペーパーを要求する。サブカルチャーについての授業であり、楽しくわかりやすい授業を心がけるつもりである。また、各自が主体的に学習し、自身がいちばん関心を抱くテーマを発見できる授業を展開する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー 30%、manaba 30%、レポート 40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容のコメント・質問など）。到達目標(1)と(3)を意識した記述が望ましい。 レポート：詳細は授業内で発表するが、到達目標(1)・(3)とともに、とくに(2)を意識した記述が望ましい。また、レポート未提出者は原則単位認定を認めない。						
履修上の注意	1. プリントは毎回配布する。 2. 授業回数の3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 3. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	教科書はないが、毎回プリントを配布するのでこれを教科書代わりにする。						
参考書	『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』、大塚英志著、2016、星海社新書、ISBN978-4-06-138579-5						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：A. Jackson					科目ナンバ-	Z5138A
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～4	単位数	1.0
授業のテーマ	「食」をテーマに専門店やファーマーズマーケット、カナダで人気のあるスーパーや市場などを視察し、実際に責任のある立場の方に話を聞きながら海外市場の傾向をつかむ。こうしたフィールドワークを通じて、最終的には日本のメニュー（お弁当他）を海外の素材を使いながら創作し、英語でプレゼンテーションを行なう。						
授業の概要	海外（カナダ）の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先（海外）の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考える。 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カナダの歴史と文化について学ぶ 【Jackson】 2. カナダの産業と企業実態 【引率教員】 3. 日本の食文化と食メニューの開発について学ぶ—プレゼンテーションを実施—【引率教員】 4. 実習に必要な基礎英語力を学ぶ 【Jackson】 5. 海外における危機管理についての意識を高める 【Jackson】 <p>【夏休み期間中実習】 8日間、48 時間以上の実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 現地説明 7. グループディスカッション・フィールドワーク 8. グループディスカッション・フィールドワーク 9. グループディスカッション・フィールドワーク 10. グループディスカッション・フィールドワーク 11. グループディスカッション・フィールドワーク 12. グループディスカッション・フィールドワーク 13. プレゼンテーション・報告会 <p>【事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 14. 実習報告書のまとめ方 【引率教員】 15. 実習報告：プレゼンテーション 【引率教員】 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①イングリッシュアイランド、ピア学習室等での英語自主学习 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどでカナダについての情報を集め、カナダについての知識を得る。						
授業方法	集中講義（事前学習、カナダでの実習、事後学習） 【実務経験のある教員等による授業】 カナダ・バンクーバーの現地企業・組織において、現地スタッフの指導の下、各種の就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、研修先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：A. Jackson					科目ナンバ-	Z5138A
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～4	単位数	1.0
授業のテーマ	ハワイ観光局が主催するホノルルフェスティバルの準備期間からスタッフとして参加し、運営のサポートを行なう。海外（ハワイ）で観光、イベント運営、サービス業などのキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知る。						
授業の概要	海外（ハワイ）の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先（海外）の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考える。 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。						
授業計画	【事前学習】 1. 実習先の企業・事業内容の確認 【引率教員】 2. ハワイの歴史と文化について学ぶ 【Jackson】 3. 実習に必要な基礎英語力を学ぶ 【Jackson】 4. 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 【Jackson】 5. 海外における危機管理についての意識を高める 【Jackson】 【春休み期間中実習】8日間、48時間以上の実習 6. ホノルルフェスティバルについての現地説明 7. ホノルルフェスティバルについての現地説明 8. ホノルルフェスティバル事前準備 9. ホノルルフェスティバル事前準備 10. ホノルルフェスティバル運営サポート 11. ホノルルフェスティバル運営サポート 12. ホノルルフェスティバル運営サポート 13. ホノルルフェスティバル現地実習報告会 【事後学習】 14. 実習報告書のまとめ方 【引率教員】 15. 実習報告：プレゼンテーション 【引率教員】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①イングリッシュアイランド、ピア学習室等での英語自主学习 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどでハワイについての情報を集め、ハワイについての知識を得る。						
授業方法	集中講義（事前学習、ハワイでの実習、事後学習） 【実務経験のある教員等による授業】 ハワイ観光局主催のホノルルフェスティバルにおいて、イベント運営に参加しながら、現地スタッフの指導のもと、就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、研修先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	海外インターンシップB						
担当教員	単位認定者：古川 典代					科目ナンバ-	Z5138B
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	本学卒業生が中国深センにて起業した可宝得環境技術有限公司において、ビジネスインターンシップを行う。日本語と中国語を駆使してビジネスの実態を知るとともに、海外企業ならではのグローバルなビジネス体験をする。						
授業の概要	海外（中国）の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先（海外）の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考える。 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。						
授業計画	【事前学習】 1. 実習先の企業・事業内容の確認 2. 中国と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 3. 実習に必要な中国語を学ぶ 4. 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 5. 海外における危機管理について意識を高める。 【春休み期間中実習】 11日間、66時間以上の実習 6. 現地本社での実習 7. 現地本社での実習 8. 現地本社での実習 9. 現地本社での実習 10. 代理店での実習 11. 代理店での実習 12. 代理店での実習 13. 現地本社での実習報告会 【事後学習】 14. 実習報告書のまとめ方 15. 実習報告：プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①ピア学習室等での中国語自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで中国についての情報を集め、中国についての知識を得る。						
授業方法	集中講義（事前学習、中国での実習、事後学習） 【実務経験のある教員等による授業】 中国深圳の企業において、現地スタッフの指導のもと、日本語と中国語を駆使したグローバルビジネスの就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、研修先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①中国語履修者で実践中国語副専攻科目を受講していること ②事前・事後学習に必ず参加すること。 ③参加申込書、誓約書を提出すること。 ④申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ⑤心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑥実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑦実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	感情・人格心理学／人格心理学						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	P12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	感情と人格について心理学の視点からその働きを学ぶ						
授業の概要	感情と人格について、その概念や心理学的な理解のあり方を学ぶ。感情はどのように生じてきて、それが日常生活のあり方にどのように影響するのか、人格はどのような過程を経て形成されるのか、人格の働きが対人関係や日常生活のあり方にどのように関係しているかを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 人格の概念及び形成過程について概説できる。 人格の類型、特性等について概説できる。 感情や人格のアセスメントの方法を理解している。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：感情と人格について学ぶことの意義について 感情の基礎理論 感情と身体の関係 感情と行動の相互関係(1)：促進的影響 感情と行動の相互関係(2)：抑制的影響 感情と日常生活への不適応 感情のアセスメント 人格とは何か 人格の形成過程 人格の理解(1)：類型論 人格の理解(2)：特性論 人格の理解(3)：力動論 人格と日常生活への不適応 人格のアセスメント 授業のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと（60分）。</p> <p>授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（60分）。</p>						
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。						
評価基準と評価方法	到達目標の達成度と、発言やディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度などの授業時における学びに取り組む姿勢とを総合的に評価する。評価の配点は、期末試験（到達目標の達成度を評価）70%、平常点（リアクションペーパー及び学びに取り組む姿勢を評価）30%とする。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	学習・言語心理学A／学習心理学						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学習に関わる心の仕組み						
授業の概要	学習とは、経験を通して行動や知識が変化することを指します。私たちは環境に適応するために学習をします。たとえば、危険を察知して逃げるための情報、学校等で獲得するさまざまな知識、他者とうまくやっていくためのふるまい方や行動等の獲得も学習を通じて行われます。講義では、このよう学習を可能にする心の仕組みについて解説します。						
到達目標	1) 人が学ぶ過程を理解することができる【知識・理解】 2) ①人の行動が変化する過程が理解できるようになる【知識・理解】 3) 日常の様々な学習場面を理論と照らし合わせて考えられるようになる【知識・理解】 ①は公認心理師カリキュラムにおける大項目						
授業計画	1. 学習心理学とは 2. 古典的条件付け1 3. 古典的条件付け2 4. オペラント条件付け1 5. オペラント条件付け2 6. 学習によらない行動変化：生得的反応 7. 知識獲得のメカニズム：記憶1 8. 知識獲得のメカニズム：記憶2 9. 学習意欲1 10. 学習意欲2 11. 心理臨床と学習心理学 12. 学習指導と学習心理学 13. 学習障害と学習心理学 14. まとめと試験 15. 試験のおさらい						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書をしっかり読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（1時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点される） 5回の欠席で、受講資格を失う。 欠席した際のプリントなどは自己責任で友人などからコピーさせてもらうこと。 出欠状況・欠席の連絡や成績、補講時間についてのメールでの問い合わせは受け付けません。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。						
教科書	太田信夫・中條和光(2019)学習心理学. 北大路書房. ISBN-10: 4762830488						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養演習I／（幸せに生きるための倫理学）						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	752360
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生が身につけるべき教養として必読と言われる著書を読み、その内容を把握する。同時に、それを題材として人が幸せに生きる方法について考える。						
授業の概要	教養は何のためにあるのでしょうか。なぜ大学で教養を身につける必要があるのでしょうか。それは誰かに知識をひけらかすためではないし、自分の価値を高めるためでもありません。教養は人が幸せになるためにあるのです。この演習では、幸せに生きるための教養を身につける方法を講師とともに学んでいきます。						
到達目標	著名な文学作品や哲学書を読むことで、教養を高める。幸せとは何かを具体的な事例に則して考えることができる。自らの考えを美しい文章で表現する方法を習得する。						
授業計画	第1回 夏目漱石『草枕』人生の目的 第2回 夏目漱石『こころ』心の傷を癒す方法 第3回 夏目漱石『それから』なぜ人は働くのか 第4回 太宰治『人間失格』絶望から立ち直る方法 第5回 太宰治『走れメロス』親友とはどういう友か 第6回 三島由紀夫『仮面の告白』ナルシストになってもいい？ 第7回 三島由紀夫『春の雪』（1）理想の恋愛は人を幸せにするか 第8回 三島由紀夫『春の雪』（2）美を追究することで幸せになれるか 第9回 遠藤周作『深い河』生まれ変わりを信じる？ 第10回 三浦綾子『塩狩峠』自己犠牲は人を幸せにするか 第11回 三浦綾子『道ありき』男性の幸せと女性の幸せ 第12回 トルストイ『クロイツェル・ソナタ』禁欲主義者は幸せになれるか 第13回 サン・テグジュペリ『星の王子さま』子どもの心で幸せになる 第14回 西田幾多郎『善の研究』座禅と瞑想で幸せになる 第15回 ニーチェ『ツアラトウストラかく語りき』生きる喜びに満たされる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内で紹介した文献に目を通し、分からない語句の意味を調べ、全体の内容を把握する（学習時間：2時間）。						
授業方法	演習であるが、担当の学生が前に出て発表するという形式ではなく、講師が選んできた文学作品などを読み、映像資料を見たり、講師の解説を聴いたあとで、受講生の考えを文章にしていくという方法を探る。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート：75%（5点×15回＝75点） 期末のレポート：25%						
履修上の注意	文学に関心のある人、人間の生き方について考えてみたい人、文章力を磨きたい人などを対象とした演習です。毎回、文学作品を読んで、課題について論述する演習なので、活字を読むのが苦手、文章を書くのが苦手という人にはお勧めできません。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。ただし、レポート作成のために、紹介した本を文庫（1000円以下）で買ってもらえるかもしれません。詳細は、授業の中で説明します。						
参考書	授業の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭					科目ナンバ	Z51050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を探る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていない。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるだろう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのであろうか。問題はそれほど単純ではない。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力』が要求されているからである。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていく。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになる。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 オペラの楽しみ(1) : G. ビゼーの《カルメン》(1) 第3回 オペラの楽しみ(2) : G. ビゼーの《カルメン》(2) 第4回 オペラの楽しみ(3) : G. ヴェルディの《椿姫》(1) 第5回 オペラの楽しみ(4) : G. ヴェルディの《椿姫》(2) 第6回 交響曲の真髄(1) : L. v. ベートーヴェンの《交響曲第5番「運命」》 第7回 交響曲の真髄(2) : L. v. ベートーヴェンの《交響曲第9番『合唱付き』》 第8回 交響曲の真髄(3) : J. ブラームスの《交響曲第1番》 第9回 標題音楽への志向(1) : F. リストの《愛の夢 第3番》 第10回 標題音楽への志向(2) : H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第11回 標題音楽への志向(3) : チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第12回 協奏曲の展開(1) : J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第13回 協奏曲の展開(2) : W. A. モーツァルトの《ピアノ協奏曲 第23番》 第14回 協奏曲の展開(3) : S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 : 各回の授業の内容が文章化されたレジュメをその前週の授業で配布し、そこで指定するキーワードについて参考文献等で下調べする。(学習時間2時間) 授業後学習 : 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また授業で一部分しか聴けなかった楽曲について全曲をCD・DVDなどで鑑賞する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義 : 準備学習で課題としたキーワードやそれに関係する重要事項を解説しながら、題材とするクラシック音楽を聴き、受講生への問いかけや受講生との議論を通じて講義を進める。						
評価基準と評価方法	・試験50% ・ミニ・レポート50%						
履修上の注意	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければならない。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消す。						
教科書	市販の書籍は使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	必要な場合、適宜指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭					科目ナンバ	Z51050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を探る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていない。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるだろう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのであろうか。問題はそれほど単純ではない。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力』が要求されているからである。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていく。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになる。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 オペラの楽しみ(1) : G. ビゼーの《カルメン》(1) 第3回 オペラの楽しみ(2) : G. ビゼーの《カルメン》(2) 第4回 オペラの楽しみ(3) : G. ヴェルディの《椿姫》(1) 第5回 オペラの楽しみ(4) : G. ヴェルディの《椿姫》(2) 第6回 交響曲の真髄(1) : L. v. ベートーヴェンの《交響曲第5番「運命」》 第7回 交響曲の真髄(2) : L. v. ベートーヴェンの《交響曲第9番『合唱付き』》 第8回 交響曲の真髄(3) : J. ブラームスの《交響曲第1番》 第9回 標題音楽への志向(1) : F. リストの《愛の夢 第3番》 第10回 標題音楽への志向(2) : H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第11回 標題音楽への志向(3) : チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第12回 協奏曲の展開(1) : J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第13回 協奏曲の展開(2) : W. A. モーツァルトの《ピアノ協奏曲 第23番》 第14回 協奏曲の展開(3) : S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 : 各回の授業の内容が文章化されたレジュメをその前週の授業で配布し、そこで指定するキーワードについて参考文献等で下調べする。(学習時間2時間) 授業後学習 : 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また授業で一部分しか聴けなかった楽曲について全曲をCD・DVDなどで鑑賞する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義 : 準備学習で課題としたキーワードやそれに関する重要事項を解説しながら、題材とするクラシック音楽を聴き、受講生への問いかけや受講生との議論を通じて講義を進める。						
評価基準と評価方法	・試験50% ・ミニ・レポート50%						
履修上の注意	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければならない。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消す。						
教科書	市販の書籍は使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	必要な場合、適宜指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	Z51060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・日頃から美術作品(美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等)をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。 ・次回授業のキーワード、美術用語(授業内で提示)についての下調べ。 ・授業で取り上げた作家、作品、技法等の確認と発展。 ・別途レポート(欠席等による課題レポートを補う): 詳細については授業内で説明する。						
授業方法	講義。 スライド、映像資料などを用いて授業を進める。 毎回、授業内容に沿って設けたテーマについての課題レポートを実施。						
評価基準と評価方法	課題レポート60%: 授業内で実施。 レポートテーマは、毎回授業内容によって異なる。 記入内容がテーマに沿っているか、また授業内容の理解と到達目標に関する到達度を確認する。 同レポートに関する個々への評価・質問等へのコメントは、レポート返却にて行う。 期末レポート40%: 到達目標の確認。						
履修上の注意	1. 五回以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。 2. 授業の進行状況によっては、授業内容を変更する場合があります。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	Z51060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・日頃から美術作品(美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等)をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。 ・次回授業のキーワード、美術用語(授業内で提示)についての下調べ。 ・授業で取り上げた作家、作品、技法等の確認と発展。 ・別途レポート(欠席等による課題レポートを補う): 詳細については授業内で説明する。						
授業方法	講義。 スライド、映像資料などを用いて授業を進める。 毎回、授業内容に沿って設けたテーマについての課題レポートを実施。						
評価基準と評価方法	課題レポート60%: 授業内で実施。 レポートテーマは、毎回授業内容によって異なる。 記入内容がテーマに沿っているか、また授業内容の理解と到達目標に関する到達度を確認する。 同レポートに関する個々への評価・質問等へのコメントは、レポート返却にて行う。 期末レポート40%: 到達目標の確認。						
履修上の注意	1. 五回以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。 2. 授業の進行状況によっては、授業内容を変更する場合があります。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	近代文学史／日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解し、その文化史的意味、現代的な意義を享受することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習し、授業中に指示した本文テキストを精読しておくこと。関連する作品を数多く読む必要があるため、自宅、図書館等での勉強に100時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを授業時間の冒頭に各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続する講読形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之					科目ナンバ-	251220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度全般や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。						
到達目標	新聞やニュース等で報道される医療制度や医療技術に関わる問題に関心を持ち、将来において自分や家族にも関係のある問題として考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度についての概論 2. 再生医療とは？ 3. 細胞分化と発生のおくみ 4. 幹細胞について 5. 医療用具とその材料 6. 人工臓器と組織工学 7. 医薬品、医療用具の認可制度 8. 臓器移植について 9. クローン動物作成技術 10. 生命倫理と社会的受容 11. 難病について 12. 感染症 13. 医療費について 14. 医療に関わるトピックス（報道記事などを参考にして事例を解説） 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。授業で配布した資料を用いて、概ね1時間程度の復習を行う。必要に応じて、講義内容に関連した調査や自分の意見についてメモなどの提出を求める事がある。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。主に資料（プリント）に記載された事項の説明を中心に授業を進めるが、自分の意見について簡単なメモの提出を求める事がある。						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
履修上の注意	先端医療に関する著書や、厚生労働白書、報道記事などに注意を払うことを薦める。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	251180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について II 法と人間 1. 法の歴史 第2回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係 第3回 III 法律の3部門 1. 民事法 第4回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法 第5回 中間まとめと復習テスト1 (I～III) 第6回 IV 憲法はなぜ必要？ 第7回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣) 第8回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法 第9回 中間まとめと復習テスト2 (IV～V) 第10回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄 第11回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか？ 第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権 第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例：表現の自由 第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由 第15回 人権と平和に関するまとめと統治概論 期末試験 (VI～VII)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習として事前配布プリントの該当箇所及び教科書の指定ページを熟読してくること（1時間） 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと（1時間）						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り、希望学生と教師の対話によって講義を進める。学期を通じて当該役割を果たした者には、期末試験において最大10点を加点する。						
教科書	プリント						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	251180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について II 法と人間 1. 法の歴史 第2回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係 第3回 III 法律の3部門 1. 民事法 第4回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法 第5回 中間まとめと復習テスト1（I～III） 第6回 IV 憲法はなぜ必要？ 第7回 V. 憲法の内容（1） 1. 民主主義（国会と内閣） 第8回 V. 憲法の内容（1） 2. 民主主義（地方自治） 3. 民主主義のなかの司法 第9回 中間まとめと復習テスト2（IV～V） 第10回 VI. 憲法の内容（2）：戦争放棄 第11回 VII. 憲法の内容（3）：人権保障 1. なぜ人権を守るのか？ 第12回 VII. 憲法の内容（3）：人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権 第13回 VII. 憲法の内容（3）：人権保障 3. 具体例：表現の自由 第14回 VII. 憲法の内容（3）：人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由 第15回 人権と平和に関するまとめと統治概論 期末試験（VI～VII）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習として事前配布プリントの該当箇所及び教科書の指定ページを熟読してくること（1時間） 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと（1時間）						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。 期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り、希望学生と教師の対話によって講義を進める。学期を通じて当該役割を果たした者には、期末試験において最大10点を加点する。						
教科書	プリント						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹					科目ナンバ-	251210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験、調査等で使われる数字を、簡単な統計を使って分かりやすく読み解きます。						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とします。授業では、ハンバーガーやアイスシヨップなどの、身近な話題を題材に、その評価をデータの代表値や散らばりなどのデータ分析から、相関、推定、検定などの統計操作、および簡単な確率やモデリングなどを利用して統計学的に処理する方法を学びます。難しい数学を使わずに統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計学的な扱いを学びます。						
到達目標	集団の統計量である平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を理解できる。 2つの集団の平均を比較するt検定（対応なし、対応あり）において、信頼区間、有意水準の違いによる、帰無仮説にたいする破棄の可否を判断することができる。 2つのデータの相関の強さを決める相関係数、決定係数を計算し、無相関検定により相関の可否を判断することができる。						
授業計画	<p>第1回: Orientation／統計学とはなに？／教科書『統計学がわかる』のハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回: 第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布」、「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回: 第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回: 第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回: 第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回: 第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回: 第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回: 第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回: 第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回: 第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」；「こころの数値化?」</p> <p>第11回: 『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』のアイスクリーム店の売り上げを例に。 第1章、最高気温と客数の関係を知りたい—「散布図と相関」</p> <p>第12回: 第2章、相関の強さを知りたい[1/2]—「相関係数」</p> <p>第13回: 第2章、相関の強さを知りたい[2/2]—「相関係数の意味を考える」</p> <p>第14回: 第3章、その相関係数に意味はあるのか?—「無相関検定」</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で取り扱う教科書の章を読み、疑問点や質問内容等をまとめる。（学習時間：1時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り扱った内容や小テストを復習し、疑問点や質問内容等をまとめる。（学習時間：2時間）</p> <p>※授業前準備学習や授業後学習で生じた疑問点や質問内容を、次の授業で質問する。</p>						
授業方法	<p>パワーポイントを使って分かりやすい授業を行ない、視覚的な理解を助けます。</p> <p>教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。</p> <p>毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト(40%)、期末試験(60%)の得点から理解度を評価します。</p> <p>欠席の小テストは、欠席理由を明記して後日提出してください。</p> <p>連絡なしでの欠席が6回を越えると単位認定から除外します。</p>						
履修上の注意	<p>授業および試験では、必ず計算機（ルート√計算機能あり）を持参して下さい。</p> <p>90分間、授業に集中してください。</p> <p>くらしの中で、どのように統計学が使われているか、どのように統計学を使うと暮らしが豊かになるかを考えてください。</p>						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる』（技術評論社）						

参考書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』（技術評論社） 小島寛之著『完全独習統計学入門』（ダイヤモンド社） 柳谷晃著『統計解析の基本』（日本能率協会マネジメントセンター） 中西寛子著『統計学の基礎』（多賀出版）
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	752320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、「経済学的な考え方」について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、経済学の「概念装置」(基礎的なものとはいえ)を通してその本質の理解に一步近づければと考えています。新聞・TV・ネットなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、「経済学的な考え方」にもとづいて分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	経済事象や経済問題をより深く理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、わたしたちにとって「経済」とは？ 2. 経済学的な見方・考え方：さまざまな経済学 3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界 4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学 5. 経済システムと組織①：市場のしくみ 6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状 7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について 8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性 9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策 10. 開放経済のマクロ経済学 <ol style="list-style-type: none"> 11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動 12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動 13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場 14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？ 15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(2時間)</p>						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(確認テスト・発表)						
履修上の注意	<p>「現代社会と経済」を履修済みかあるいは経済学に積極的関心のある者が履修することが望ましいです。なるべく理解度を確認しながら進むつもりなので講義スケジュールの順序・かける時間に多少の異同はあります。</p> <p>授業マナーをしっかり守る〔私語・途中退出・遅刻は厳禁〕。提出物を求められたときは期日厳守。</p>						
教科書	プリント・資料などを配付						
参考書	<p>井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』(ナツメ社)</p> <p>嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』(ナツメ社)</p> <p>若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』(ミネルヴァ書房)</p> <p>山田鋭夫著『レギュレーション理論』(講談社新書)</p> <p>J.スティグリッツ著『入門経済学』(東洋経済新報社)</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か? 誰のための経済か?—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①: 経済政策 9 経済における政府の役割②: 社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①: 交易 13 国際経済のしくみ②: 金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習: 授業内容を復習し、確認テストに備える。(2時間)</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。</p> <p>理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。</p> <p>積極的に授業に臨まれることを希望します。</p>						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か? 誰のための経済か?—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①: 経済政策 9 経済における政府の役割②: 社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①: 交易 13 国際経済のしくみ②: 金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習: 授業内容を復習し、確認テストに備える。(2時間)</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。</p> <p>理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。</p> <p>積極的に授業に臨まれることを希望します。</p>						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革・司法改革とその問題 11 歴史認識とナショナリズム 12 日本と中国・北朝鮮・韓国・ロシア 13 日本と米・欧 14 日本とイスラーム諸国 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEBや参考文献を用いて調べ、指示された様式でまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(90分)</p>						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。						
履修上の注意	理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更ができる可能性があります。 提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革・司法改革とその問題 11 歴史認識とナショナリズム 12 日本と中国・北朝鮮・韓国・ロシア 13 日本と米・欧 14 日本とイスラーム諸国 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEBや参考文献を用いて調べ、指示された様式でまとめる。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。(90分)</p>						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。						
履修上の注意	理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更ができる可能性があります。 提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	Z51170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア・コミュニケーションの科学						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。本講義では、具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げながら、今日のメディア・コミュニケーションに対する理解を深めていく。						
到達目標	(1) メディアを使った情報伝達活動についての基本的な知識を習得できる。【知識・理解】 (2) メディア・コミュニケーションを分析するためのさまざまな視角を知ることができる。【知識・理解】						
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 コミュニケーションとは何か 3 メディアとは何か 4 文字のコミュニケーション 5 映像のコミュニケーション 6 ソーシャルメディアとコミュニケーション 7 グループワーク：これまでのまとめ 8 メディア・コミュニケーションの影響力 9 流行とメディア 10 うわさ 11 広告とコミュニケーション 12 広報とコミュニケーション 13 アートとコミュニケーション 14 災害とコミュニケーション 15 授業のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べし、自分の考えや意見をまとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理し、ノートを作成する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心とするがグループワークを行うことがある。 ICT技術を活用して各回受講生の考えや意見を取り入れるなど、双方向型の授業を実施する。 松蔭manabaを利用して期末試験を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験（小テストとレポート） 70%： 授業で扱った内容の理解度を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業への参加度 30%： 各回授業中に出題する質問への回答の的確性、および、授業内容に関するコメントおよび質問の的確性、を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 質問への回答および授業内容に関するコメント・質問について、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	私語は厳禁ですが、授業に関する積極的な発言は歓迎します。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	辻大介・是永論・関谷直也、『コミュニケーション論をつかむ』、有斐閣、2014年						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養I／（哲学から考える世界と人間）						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	251270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。究極的な意味において、世界は何からできているのか？私たち人間は、何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに正面から取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学です。この授業では、古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ、哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想内容について学びます。						
授業の概要	授業の前半では、西洋において哲学的思考が誕生した紀元前5世紀から4世紀の古代ギリシアの哲学者の思想を、後半では、西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀までに登場した重要な哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想をできるだけわかりやすく講義します。授業では、適宜、授業のテーマと関連する現代的なトピックを扱った参考資料を配布して、そのことがらの哲学的意味をあきらかにして、われわれが生きているこの現代における哲学的思考の意義と必要性を解説します。						
到達目標	哲学を学ぶことは、過去の哲学者の人名や書物の名前を暗記することではありません。哲学は、私たち自身が生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点に立ち戻って、事柄の根源的な意味を洞察しようとする学問です。私たちが直面する問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まり論理的・反省的にその問題自体の意味を深く考えるときに、哲学という営みが始まります。日常においてそれを当たり前を感じていることを考え直し、私たちが生きている世界と自分自身の在り方について、全体的かつ理論的な把握ができるような考え方を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 プラトンのイデア論 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 09 デカルトの哲学2－心身二元論 10 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 11 ヒュームの経験論－因果律の否定 12 カントの哲学－コペルニクス的転回 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜学 14 ニーチェの思想2－貴族道徳と奴隷道徳 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前事前学習：シラバスで示されたテーマに対応するテキストの箇所を読み、そこで扱われているテーマの概要をできるだけ把握しておくこと（学習時間1時間）。 授業後学習：授業の内容を踏まえて、授業中にとったノート、授業中に使用したスライド等を参照しながら、もう一度、授業で取り扱われたテキストの部分を読み返してみる。さらに指定された参考書、インターネット等を利用して、授業内容の理解を深めること（学習時間3時間）。						
授業方法	毎回、テキストとスライドを使用して講義をおこないます。さらに講義の内容を踏まえて、テーマ毎に授業の参加者全体でのディスカッションをおこないます。哲学という学問は、結論を暗記することではなく、そもそもの問題の意味、また思想家たちがどのような理論的道筋を経てどのような結論に至ったのかを理解することが重要です。自分の理解の仕方、あるいは理解しがたいところを自分の言葉で明確にすることによって、理解の深化を図ります。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点（授業内提出物と授業態度）の100点満点で評価します。						
履修上の注意	「哲学」というものにたいして、「難しい」、「理屈っぽい」というイメージをもつ人がいます。しかし、われわれが生きていくなかで直面するさまざまな問題は、突き詰めれば「世界」や「人間」というものをどのように理解するのかという哲学的問題とつながっています。本当の意味での視野の広さ、ものを考える力というものを身につけることに貢献すると信じます。哲学という学問は、大学という自由な環境においてのみ学ぶことのできる学問です。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史－自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012 ISBN:978-4121021878）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養II／（進化から考える人間らしさ）						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	251280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしさを進化から考える						
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	<p>(1) 自然にかかわる教養の一つとして人間の進化について基本的な知識を持ち、人間の身体や心の働きを進化論的視点から説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 社会にかかわる教養の一つとして、現代社会とそこで生きる人間の問題を進化論的視点から考えることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) 人間に対する理解を深めることを通して、他者への寛容や共生の精神を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 人間の悩みを人類進化から考える</p> <p>第2回 人間の祖先はサルって本当？</p> <p>第3回 人類進化の始まり</p> <p>第4回 “原始人”て、どんな人？</p> <p>第5回 初期ホモ属</p> <p>第6回 ホモ・サピエンス</p> <p>第7回 人類の世界への拡がり</p> <p>第8回 人間が見る世界、聞く世界</p> <p>第9回 人間の知らない世界</p> <p>第10回 道具使用と模倣</p> <p>第11回 なぜ群れをつくるのか</p> <p>第12回 利他性を持つ動物についてと達成度確認試験</p> <p>第13回 協力と援助</p> <p>第14回 感情と進化</p> <p>第15回 人間らしい感情の進化</p> <p>期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業後学習： 授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間2時間）。</p> <p>授業の参考書（シラバス参考書欄にあるようにWEB上で紹介）を読む（学習時間2時間）。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50%、試験 50%</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（3）に関する到達度の確認。</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。</p> <p>試験：到達目標（1）から（2）の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	杉井 俊介					科目ナンバ-	752340
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員制度の概要とそれに関連する刑事法の基礎						
授業の概要	裁判員制度の概要とそれに関連する刑事法の基礎						
授業の概要	裁判員制度の概要とそれに関連する刑事法の基礎						
到達目標	学生にとって法律や裁判を身近に感じてもらうとともに、将来裁判員として裁判に参加するための基礎的知識や、社会生活を送る上で有益な法律の教養的知識を得ることを目標とします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：講義の概要と授業の進め方について 2. 裁判員制度の概要（1）：誰が裁判員になり、どのようなことをするのか？ 3. 裁判員制度の概要（2）：裁判員裁判の仕組みと通常の刑事裁判との違い 4. 法律の専門家とよばれる人々について 5. 犯罪類型について：どんな行為が犯罪になる？ 6. 犯罪が成立するための要件：どのような事実が必要か？ 7. 犯罪が不成立となる要件（1）：行為が違法とならない場合 8. 犯罪が不成立となる要件（2）：責任とは？ 9. 少年犯罪：成人による犯罪とどう違う？ 10. 罪を犯した後の手続：罪を犯すとどうなる？ 11. 親告罪と呼ばれる犯罪と近時の法改正について 12. 刑罰の種類と判決後の生活：有罪判決を受けるとどうなる？ 13. 特別な刑罰：死刑について 14. 刑務所を出た後と更生について 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次回の授業のために予習すべき内容（文献や出来事など）を各回の授業時に指示しますので、授業に出席する前に必ず目を通してください。 授業後学習：授業で配布した資料を用いて、習った範囲で法律に関する基礎的知識を定着させる（例えば、専門用語や制度の意味を正しく理解する）よう努めてください。						
授業方法	講義形式で行う予定ですが、参加人数によってはグループワークを行うことを考えています。また、授業では発言を求められることがあります。						
評価基準と評価方法	授業での評価（リアクションペーパーやグループワークなど。概要は参加人数を考慮しながら、授業で指示します）30%、期末試験70%により評価します。						
履修上の注意	法律の知識は全く不要ですが、日々報道される法律や裁判に関する時事問題に興味を持って参加してください。						
教科書	特にありません。						
参考書	『はじめての法律学〔第5版〕』松井茂記ほか著、有斐閣、ISBN978-4-6412-2092-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養V／地域研究I／（現代の東アジア）						
担当教員	根岸 智代					科目ナンバ-	752350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	アジア社会の歴史と現状及び日本との関係を考察する。						
授業の概要	中国をはじめとするアジア社会の現状を歴史的視点などから考察する。アジアとは何か、どのように観るべきかという問題について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得できる。						
授業計画	第1回 中国 中国概観 第2回 現代中国 第3回 近現代中国史 第4回 台湾 (1) 台湾近現代史 第5回 台湾 (2) 戦後台湾の発展 第6回 香港 植民地期の香港の歴史と、中国への返還 第7回 香港・マカオ マカオの歴史 第8回 シンガポール (1) シンガポールの歴史 第9回 シンガポール (2) シンガポールの現代 第10回 韓国 (1) 戦後韓国の発展と日韓関係 第11回 韓国 (2) 第12回 ベトナム (1) 第13回 ベトナム (2) その他のアジアの国々 第14回 その他のアジアの国々 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各回に取り上げる議題について、図書などを通して知識をえておくこと。授業後には、授業で渡したレジュメをもとに、東アジアの国々の諸事情をまとめ、さらに興味を持った点などを明らかにしておくこと。 日頃から新聞やテレビ等で、東アジア及びアジア全般の情報を収集するよう希望する。						
授業方法	講義形式で行う。映像や画像を用いて説明し、授業内容に沿ったレジュメを用意する。 また、各回の最後にレポートを提出し、毎回の授業でのまとめを行う。また毎回ごとに、紹介する東アジアの国と日本がどう関わるべきかを話しあってもらう機会も設けたい。						
評価基準と評価方法	論述式の試験（60％）と小テスト及び中間テスト（40％）で評価する。						
履修上の注意	積極的に授業に参加することを希望する。 授業内容等で疑問に思ったことなどは、下記のメールアドレスに連絡をするように。 negi_86(at)yahoo.co.jp [メールをする場合は(at)を@に置き換えること]						
教科書							
参考書	授業中にプリント等で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z51010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できるようになる。						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを探し、その内容を把握する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式で行います。 講義で扱われたテーマについてペアでディスカッションを行い、その報告を踏まえて次のテーマを選んでいきます。 ペアを組むのが難しい場合は、紙上ディスカッションとして小レポートの内容を講師が発表し、それについての意見を述べてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポート2点×15回） 期末試験：70点						
履修上の注意	毎回、深刻な事件（殺人などを含む）を題材とするので、上の授業計画に目を通して不快感を持ってしまう人にはお勧めできません。 事前に自分で判断してから履修するようにして下さい。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神戸研究総論						
担当教員	単位認定者：田附 敏尚					科目ナンバ-	752330
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史・文学・芸術文化などの面からの「神戸」探究						
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。						
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べることができる。 (知識・理解(2))						
授業計画	<p>【総論】</p> <p>1 「神戸研究総論」について（本講義の目的と概要について解説する。）</p> <p>【歴史】</p> <p>2 考古学：ゲストスピーカーによる講義 (六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。)</p> <p>3 中世史：ゲストスピーカーによる講義 (中世の兵庫津の歴史を中心に、古文書や古記録を基に考察する。)</p> <p>4 近世史：ゲストスピーカーによる講義 (近世後期～幕末期の神戸の歴史的特質を資料に基づいて論じる。)</p> <p>5 近代史：ゲストスピーカーによる講義 (近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。)</p> <p>【文学】</p> <p>6 古典文学：田中 まき (『伊勢物語』や『源氏物語』で神戸が舞台となっている話を紹介し、平安時代の神戸の姿を考察する。)</p> <p>7 近現代文学：青木 稔弥 (1900年9月9日、夏目漱石は、諏訪山温泉に泊まった。神戸市街を俯瞰できる今は存在しない温泉である。漱石と神戸の関係を考える。)</p> <p>8 方言：田附 敏尚 (神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。)</p> <p>【芸術文化】</p> <p>9 食生活：江 弘毅 (開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。)</p> <p>10 建築・デザイン：中林 浩 (神戸にも人びとの暮らしのなかで育まれた愛すべき景観が多くあることを紹介する。)</p> <p>11 ファッション：徳山 孝子 (“神戸ファッション”イコール“おしゃれ”というイメージを歴史的背景から読み解く。)</p> <p>12 神戸の美術コレクターたち：ゲストスピーカーによる講義 (明治から昭和初期にかけて活躍した神戸ゆかりのコレクター(川崎正藏、松方幸次郎、池長孟)の功績と意義を探る。)</p> <p>13 神戸のカミとホトケ古の折りのかたち：ゲストスピーカーによる講義 (近代以降のイメージが強い神戸に息づく古(いにしえ)のカミとホトケの姿を探る。)</p> <p>14 神戸の書と藝術：丸山 果織 (書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。)</p> <p>15 神戸のイメージ：西川 純司 (映画やドラマ、漫画に描かれた神戸のまちのイメージを辿る。)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをすること。(学習時間：120分)</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：120分)</p> <p>授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>						
授業方法	<p>講義(オムニバス)</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>神戸市立博物館の学芸員を講師として招き、博物館学芸員としての実務の経験を基にして、多角的かつ実践的な視点から「神戸」に関する研究を指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>各回の課題・レポート70%、リアクションペーパー30%</p> <p>・各回で簡単な課題を課し、各回で評価する。各回の評価を単位認定者が取りまとめ、総合的に最終評価を下す。</p>						

履修上の注意	1. 毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・レポートを提出する。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した者については、特段の理由ある場合を除き単位を認めない。
教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神戸論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティー 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食へ外国料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神大水害、神戸大空襲、阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること（1時間）。その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること（1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（1200字）50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー—』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	梅野 智美					科目ナンバ-	251230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	(1) 臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる。 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスへの理解とメンタルヘルスクア能力を向上させるスキルを身につける。						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 こころの健康とストレス 第3回 思春期のこころの病（統合失調症、うつ病） 第4回 発達障害 第5回 心理テスト①（知能検査、質問紙法） 第6回 心理テスト②（投射法） 第7回 心理療法①（精神分析、来談者中心療法） 第8回 心理療法②（行動療法、認知行動療法） 第9回 心理療法③（家族療法、ブリーフセラピー） 第10回 ポジティブ心理学 第11回 レジリエンス①（こころの回復力とは） 第12回 レジリエンス②（レジリエンスを鍛える） 第13回 レジリエンス③（ネガティブな捉え方を変える） 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って下調べをする（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間90分）						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、心理テストやワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。 平常点40%：各回提出のリアクションペーパーの内容や授業への参加度などを評価する。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁						
教科書	なし。 毎回資料を配布する。						
参考書	授業内で適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	251230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	よりよい人生となるように心の問題とその解決の方策について理解する						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころのついて身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころをとらえることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	(1) 現代社会の心の問題について幅広い教養の一つとして理解し、解説することができる (2) 心の問題の解決について、具体例を挙げて解説することができる (3) 生涯にわたり健康な心身の保持増進を図る姿勢を身につけ、具体的な方策について解説できる						
授業計画	第1回：ストレスとメンタルヘルスについて 第2回：ライフサイクルから見たメンタルヘルス 第3回：こころの問題を理解する (1) 摂食障害と心身症など 第4回：こころの問題を理解する (2) ト라우マに関連した問題 第5回：こころの問題を理解する (3) 統合失調症とうつ病など 第6回：こころの問題を理解する (4) 不安に関連した疾患など 第7回：こころの問題を理解する (5) 発達障がいや適応の問題 第8回：こころの問題を解決する (1) 心理療法と薬物療法 第9回：こころの問題を解決する (2) 精神分析と行動療法 第10回：こころの問題を解決する (3) リラクゼーションの理論と実際 第11回：こころの問題を解決する (4) 来談者中心療法と家族療法 第12回：こころの問題を解決する (5) カウンセリングの技法の実際 第13回：こころの問題を予防する (1) 様々な分野での予防の取り組み 第14回：こころの問題を予防する (2) コミュニケーションの改善にむけて 第15回：授業のまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について各自で下調べをしておく(学習時間90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認・整理し、与えられたテーマについて個人もしくはグループにて学習し、発表の準備を行う(学習時間90分)						
授業方法	講義：授業中に与えられたテーマについて小グループ、もしくはペアになってディスカッションし、報告を行う。報告の内容について適宜、解説を行う。 発表：授業中に与えられたテーマについて、グループで調べ、発表する。発表された内容について、補足説明及び解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物 30%、発表の内容 30%、期末試験 40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についての湖面t・質問・事例提示)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 期末試験：授業で扱ったこころの問題やその解決に関する理解度、生涯にわたるメンタルヘルスの予防や心理的健康の維持に関する興味・感心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問について翌週授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 授業の配布プリントは、各回の出席者のみ配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布) 2. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする 3. リアクションペーパーには、クラス内に開示されてもよい内容のみを記述すること						
教科書	授業中にプリントを配布する						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	251230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	よりよい人生となるように心の問題とその解決の方策について理解する						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころのついて身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころをとらえることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	(1) 現代社会の心の問題について幅広い教養の一つとして理解し、解説することができる (2) 心の問題の解決について、具体例を挙げて解説することができる (3) 生涯にわたり健康な心身の保持増進を図る姿勢を身につけ、具体的な方策について解説できる						
授業計画	第1回：ストレスとメンタルヘルスについて 第2回：ライフサイクルから見たメンタルヘルス 第3回：こころの問題を理解する (1) 摂食障害と心身症など 第4回：こころの問題を理解する (2) ト라우マに関連した問題 第5回：こころの問題を理解する (3) 統合失調症とうつ病など 第6回：こころの問題を理解する (4) 不安に関連した疾患など 第7回：こころの問題を理解する (5) 発達障がいや適応の問題 第8回：こころの問題を解決する (1) 心理療法と薬物療法 第9回：こころの問題を解決する (2) 精神分析と行動療法 第10回：こころの問題を解決する (3) リラクゼーションの理論と実際 第11回：こころの問題を解決する (4) 来談者中心療法と家族療法 第12回：こころの問題を解決する (5) カウンセリングの技法の実際 第13回：こころの問題を予防する (1) 様々な分野での予防の取り組み 第14回：こころの問題を予防する (2) コミュニケーションの改善にむけて 第15回：授業のまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について各自で下調べをしておく(学習時間90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認・整理し、与えられたテーマについて個人もしくはグループにて学習し、発表の準備を行う(学習時間90分)						
授業方法	講義：授業中に与えられたテーマについて小グループ、もしくはペアになってディスカッションし、報告を行う。報告の内容について適宜、解説を行う。 発表：授業中に与えられたテーマについて、グループで調べ、発表する。発表された内容について、補足説明及び解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物 30%、発表の内容 30%、期末試験 40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についての湖面t・質問・事例提示)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 期末試験：授業で扱ったこころの問題やその解決に関する理解度、生涯にわたるメンタルヘルスの予防や心理的健康の維持に関する興味・感心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問について翌週授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 授業の配布プリントは、各回の出席者のみ配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布) 2. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする 3. リアクションペーパーには、クラス内に開示されてもよい内容のみを記述すること						
教科書	授業中にプリントを配布する						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	古典文学史／日本文学史A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の歴史を学び、それぞれの作品が生み出された歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	古典文学がそれぞれの時代にどのように現れ、どのように享受されて来たのか考え、その特徴を講義する。						
到達目標	古典文学史について理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 古典文学作品の名称や作者名、その特徴について説明できる。【知識・理解】 古典文学に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 時代区分と『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰和歌集の成立 第4回 物語文学 第5回 女流日記・随筆 第6回 歴史物語 第7回 説話集 第8回 和歌と歌学 第9回 軍記物語 第10回 能・狂言 第11回 文学の大衆化（浮世草子） 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃と歌舞伎 第14回 和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：古典文学史の流れが理解できるよう、教科書を読む。（学習時間：30分） 授業後学習：古典作品の名称や作者名、その特徴について説明できるよう復習する。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義 文学史の展開や古典作品についてのディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組み姿勢 10%						
履修上の注意	範囲を示して、小テストを実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	梅村 麦生					科目ナンバ-	251090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>「社会」について考える学問が社会学です。しかし、この「社会」とは何を指すのでしょうか。この「社会」は中学校や高校で勉強した社会科の授業の社会とは異なるものです。単純化していえば、人が集まって暮らす中で自然に形成されてきた部分、これが社会です。よく考えてみると、私たちの生活の大部分は、この社会からの影響を受けていることが分かります。言葉、経済制度、法律、習慣、文化・・・これらの物は私たちが集団で暮らす中で形作ってきた社会の断片たちです。この授業では現代社会に固有のトピックを用いて、社会学の基本的な考え方をみなさんに紹介していきます。</p>						
授業の概要	<p>現在私たちが当たり前だと思っていることは、意外と最近できたものだったりすることがある。例えばある研究によれば、1780年のパリでは1年間に生まれた2万1千人の子供のうち母親に育てられたのは、1000人以下であった。1000人は住み込みの乳母に、残りの1万9千人は里子に出された。この事例は私たちが今当たり前だと思っている親子関係のあり方が、ここ200年ほどの間に出現した比較的新しいものであることを示している。つまり、私たちの家族は昔からずっとこの形ではなかったし、今このような形態である必然性もないことになる。このような社会学の相対化する視点を通じて、現代社会とはどんな場所か、日本社会にはどんな特性があるのかについて取り上げていく。また、現代社会の特性を捉える軸として、マクドナルド化、感情労働、ロマンティッククラブイデオロギー、親密圏などの社会学における代表的な考え方をを用いる。「社会学がどんな学問であるか」という感触をみなさんに届けたいと思います。</p>						
到達目標	<p>1. 「社会」とはどのようなものか、「社会学」とはどのような学問かについて、説明することができる。【知識・理解】 2. 自分たちがいま生きている現代社会について、社会学の観点から考えることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>1：授業ガイダンス イントロダクション 2：社会のとらえかた—社会を見る視点と方法：ブラック企業という現象を事例に 3：社会のとらえかた—社会を見る視点と方法：現代日本における自殺の類型と『自殺論』 4：人間関係から見る社会：もともと身近な社会としての家族 5：人間関係から見る社会：神話としての恋愛結婚と近代家族 6：人間関係から見る社会：愛の共同体としての近代家族とその問題 7：人間関係から見る社会：若者の友人関係の変化とキャラ的人間関係 8：消費から見る社会：マクドナルド化する社会 9：消費から見る社会：消費の合理化と非現実性産業 10：消費から見る社会：記号消費とマスメディア化する現実感 11：消費から見る社会：消費社会の貧困と意義喪失 12：仕事から見る社会：日本社会と「就活」の現在 13：仕事から見る社会：日本社会と会社主義 14：仕事から見る社会：新たな労働の現れ—感情労働 15：まとめ：社会を考える</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：前回の授業内容を復習しておくこと。（学習時間：1時間） 授業後学習：参考書および授業内で紹介した資料について、適宜自分で読んでおくこと。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	<p>試験80%：記述・論述式（60分）。到達目標1と2に関する到達度を確認する。持ち込みなし。 平常点20%：各回の授業で配布するリアクションペーパーで知識の理解度と見解を確認する。</p>						
履修上の注意	<p>パワーポイントを板書代わりに使用します。必要に応じてノートを取るようになしてください。期末の定期試験は論述方式で持ち込み不可です。ただし、試験問題は初期の授業であらかじめ受講生に公表します。</p>						
教科書	なし						
参考書	<p>G. リッツァ 『マクドナルド化する社会』 早稲田大学出版部 ISBN:4657994131 A. ギデンズ 『親密生の変容』 而立書房 ISBN:4880592080 A. R. ホックシールド 『管理される心—感情が商品になるとき』 世界思想社 ISBN:4790708039 E. デュルケム 『自殺論』 中央公論社 ISBN:4122012562</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	梅村 麦生					科目ナンバ-	Z51090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>「社会」について考える学問が社会学です。しかし、この「社会」とは何を指すのでしょうか。この「社会」は中学校や高校で勉強した社会科の授業の社会とは異なるものです。単純化していえば、人が集まって暮らす中で自然に形成されてきた部分、これが社会です。よく考えてみると、私たちの生活の大部分は、この社会からの影響を受けていることが分かります。言葉、経済制度、法律、習慣、文化・・・これらの物は私たちが集団で暮らす中で形作ってきた社会の断片たちです。この授業では現代社会に固有のトピックを用いて、社会学の基本的な考え方をみなさんに紹介していきます。</p>						
授業の概要	<p>現在私たちが当たり前だと思っていることは、意外と最近できたものだったりすることがある。例えばある研究によれば、1780年のパリでは1年間に生まれた2万1千人の子供のうち母親に育てられたのは、1000人以下であった。1000人は住み込みの乳母に、残りの1万9千人は里子に出された。この事例は私たちが今当たり前だと思っている親子関係のあり方が、ここ200年ほどの間に出現した比較的新しいものであることを示している。つまり、私たちの家族は昔からずっとこの形ではなかったし、今このような形態である必然性もないことになる。このような社会学の相対化する視点を通じて、現代社会とはどんな場所か、日本社会にはどんな特性があるのかについて取り上げていく。また、現代社会の特性を捉える軸として、マクドナルド化、感情労働、ロマンティックラブイデオロギー、親密圏などの社会学における代表的な考え方をを用いる。「社会学がどんな学問であるか」という感触をみなさんに届けたいと思います。</p>						
到達目標	<p>1. 「社会」とはどのようなものか、「社会学」とはどのような学問かについて、説明することができる。【知識・理解】 2. 自分たちがいま生きている現代社会について、社会学の観点から考えることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>1: 授業ガイダンス インTRODクシヨン 2: 社会のとらえかた—社会を見る視点と方法: ブラック企業という現象を事例に 3: 社会のとらえかた—社会を見る視点と方法: 現代日本における自殺の類型と『自殺論』 4: 人間関係から見る社会: もっとも身近な社会としての家族 5: 人間関係から見る社会: 神話としての恋愛結婚と近代家族 6: 人間関係から見る社会: 愛の共同体としての近代家族とその問題 7: 人間関係から見る社会: 若者の友人関係の変化とキャラ的人間関係 8: 消費から見る社会: マクドナルド化する社会 9: 消費から見る社会: 消費の合理化と非現実性産業 10: 消費から見る社会: 記号消費とマスメディア化する現実感 11: 消費から見る社会: 消費社会の貧困と意義喪失 12: 仕事から見る社会: 日本社会と「就活」の現在 13: 仕事から見る社会: 日本社会と会社主義 14: 仕事から見る社会: 新たな労働の現れ—感情労働 15: まとめ: 社会を考える</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習: 前回の授業内容を復習しておくこと。(学習時間: 1時間) 授業後学習: 参考書および授業内で紹介した資料について、適宜自分で読んでおくこと。(学習時間: 1時間)</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	<p>試験80%: 記述・論述式(60分)。到達目標1と2に関する到達度を確認する。持ち込みなし。 平常点20%: 各回の授業で配布するリアクションペーパーで知識の理解度と見解を確認する。</p>						
履修上の注意	<p>パワーポイントを板書代わりに使用します。必要に応じてノートを取るようになしてください。期末の定期試験は論述方式で持ち込み不可です。ただし、試験問題は初期の授業であらかじめ受講生に公表します。</p>						
教科書	なし						
参考書	<p>G. リッツァ 『マクドナルド化する社会』 早稲田大学出版部 ISBN:4657994131 A. ギデンズ 『親密生の変容』 而立書房 ISBN:4880592080 A. R. ホックシールド 『管理される心—感情が商品になるとき』 世界思想社 ISBN:4790708039 E. デュルケム 『自殺論』 中央公論社 ISBN:4122012562</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会心理学						
担当教員	河村 悠太					科目ナンバ-	Z51110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学概論						
授業の概要	「一人で仕事をしているときは怠けているが、他の人がそばにいと張り切って仕事をする」など、人の行動は「他者」や「社会」と個人の相互作用により変化する。社会心理学は、その背景にはどのような「ところ」の仕組みがあるか研究する学問である。本講義では、人の行動が「他者」や「社会」によってどのように変化するのか、またその背景にはどのような「ところ」の働きがあると考えられているのか、ということについて個人・対人・集団の3つのレベルに分けて解説する。						
到達目標	①社会心理学の基礎的な知識を説明できるようになる。【知識・理解】 ②自分や他者の行動を、社会心理学的な視点から考察できるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：社会心理学とはどのような学問か 第2回 個人①：社会的認知 第3回 個人②：感情 第4回 個人③：自己 第5回 対人①：他者評価 第6回 対人②：コミュニケーション 第7回 対人③：態度 第8回 対人④：援助行動と攻撃行動 第9回 集団①：集団と個人 第10回 集団②：ステレオタイプ・偏見 第11回 集団③：集団間葛藤 第12回 集団④：文化 第13回 Ex.：進化心理学 第14回 Ex.：社会神経科学 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。（学習時間2時間） 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。（学習時間2時間）						
授業方法	講義が中心ですが、ときに心理学調査・実験の体験実習を行います。実習は、ペアまたはグループワークの形式で行う場合があります。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	ミニレポート45%・試験55%とします。						
履修上の注意	授業に関する質問は随時受け付けます。 授業中・授業前後に直接質問する、ミニレポートで質問する、連絡先にメールを送る、等のどの方法で行って頂いても構いません。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 北村 英哉・内田 由紀子（編）「社会心理学概論」ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1059-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活I（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化を捉えつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	<p>(1) 高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。</p> <p>(2) 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。</p> <p>(3) 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 人の一生と家族</p> <p>第2回 青年期の自立と家族（グループワーク）</p> <p>第3回 家族の概念と定義</p> <p>第4回 少子化とその原因分析（グループ発表）</p> <p>第5回 子どもの発達と親の役割</p> <p>第6回 家族関係を分析する理論—役割理論—</p> <p>第7回 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論—（ゲストスピーカー招聘予定）</p> <p>第8回 家族関係を分析する理論—ライフコース理論—</p> <p>第9回 人間関係を分析する理論—コーホート理論—</p> <p>第10回 高齢社会と家族</p> <p>第11回 共生社会と福祉（高齢者福祉・児童福祉）（グループワーク）</p> <p>第12回 家族とグローバルゼーション（グループ発表）</p> <p>第13回 夫婦関係と法律</p> <p>第14回 親子関係と法律</p> <p>第15回 家族生活と社会・期末試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業前に、各界の授業で扱うテーマの箇所を教科書を読んで予習する（学習時間60分）</p> <p>授業後学習：第1回目はグループディスカッションした結果と官公庁統計データをもとに、女性のライフコースについてのレポートを作成する。（学習時間300分）第2回目はわが町の人口変動（少子化・高齢化）と子育て支援と高齢者福祉についての統計データを調べ、自治体の対策の現状と今後の課題についてレポートを作成する。（学習時間300分）</p>						
授業方法	講義：女性のライフコース及び、高齢者福祉についてのグループワークを行う。グループワークの結果と統計資料や自治体の施策についてのフィールドワーク（授業外学習）の結果を合わせてプレゼンテーションを行う。グループワークの結果及びプレゼンテーションについては松蔭マナバを活用する。						
評価基準と評価方法	<p>小レポート、発表と期末試験（授業外小レポート2回と授業集の小レポート60% 期末試験 40%）</p> <p>レポートは、到達目標（3）に示されたグループワークの結果を基にして、到達目標（2）の自治体の支援サービスについて調べた結果をまとめる能力を測定する。評価基準を定めたルーブリック評価を行う。評価結果は松蔭マナバでフィードバックする。</p> <p>期末試験は到達目標（1）に示された家族社会学の専門用語の理解、到達目標（2）に示された現代家族の問題解決についての理論的知識、汎用技能、態度が確認できる設問を用意する。試験結果は解説とともに返還する。</p>						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。学外に出て、地域のデータを集めたり、フィールドワークを実施しその結果を報告することがある、それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	よくわかる現代家族【改訂版】神原文子、杉井順子、竹田美知 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07683-3						
参考書	特になし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活II (神戸論)						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティー 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食へ外国料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光 (ゲスト・スピーカー招聘予定) 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神大水害、神戸大空襲、阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること (1時間)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること (1時間)。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論 (1200字) 50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答 (コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー—』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子					科目ナンバ-	251130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な生活をテーマにした現状の社会とそれに伴う福祉の制度の知識を習得し、社会福祉の領域での「楽しい生活」とは何かを考えていく。						
授業の概要	社会福祉とは、障がい者と高齢者だけの社会福祉ではなく全ての人を対象とする。日常生活の身近なテーマから社会福祉とその制度について学び、「人間とは何か」、「どう生きていくのか」、そして「幸せとは何か」について社会福祉の基本的な考えと制度を視覚教材や一部アメリカについても学ぶことで、「楽しい生活」について考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発表に向けてのグループワークと講義内容からの質問についてディスカッションを通して、他者に自分の価値観や考えを伝えることができる。また、他者の意見から学び、自分の考えをさらに広げることができる。 (2) 講義で学んだ基本的な社会福祉とその制度を習得することができる。 (3) 社会福祉の領域での「楽しい生活」について自分の考えを他者に述べるができる。 (4) 新聞スクラップを教材とした学習から、社会福祉の問題について疑問を持ち、考え、調べ、対策や改善を考えるという行動を今後の生活に取り入れるきっかけとすることができる。 						
授業計画	<p>第1回 「履修上の注意」の説明 社会福祉とは何か（よりよい生活の確立、福祉領域のボランティア）</p> <p>第2回 ボランティアについて＜質疑応答＞、「楽しい生活」とは 障がい者と制度（障がい者の理念、身体障害者補助犬法）</p> <p>第3回 障がい者と制度（障がい者の就労とジョブ・コーチ制度＜視覚教材学習とディスカッション＞）</p> <p>第4回 家庭・家族と福祉1（結婚とは、ダブルケア-高齢出産と不妊、誕生死-著書教材学習）</p> <p>第5回 家庭・家族と福祉2（10代の性と生と特別養子縁組＜視覚教材学習＞、里親制度）</p> <p>第6回 家庭・家族と福祉3（貧困家庭、生活保護制度）</p> <p>第7回 家庭・家族と福祉3（アメリカの貧困と人種差別＜視覚教材学習＞）</p> <p>第8回 雇用と福祉（雇用について、就職氷河期、高齢者雇用と制度、最低賃金） グループワーク1（新聞スクラップ使用した事前学習使用とディスカッション）</p> <p>第9回 グループワーク1の続き（調べてきた内容の発表）</p> <p>第10回 高齢者と福祉1（ウエルビーイング、生活と老後破たん、公的年金と誤算）</p> <p>第11回 高齢者と福祉2（公的年金について、ライフ・プランとは、介護と介護問題）</p> <p>第12回 高齢者と福祉3（介護保険制度、徘徊の目的＜視覚教材学習＞）</p> <p>第13回 アメリカの高齢者施設と音楽療法 社会福祉の歴史（第2次世界大戦後）</p> <p>第14回 社会福祉の歴史（第2次世界大戦後の続き～平成）</p> <p>第15回 まとめ（復習）テスト、ディスカッション（到達目標とテーマについて）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業に使用する教科書代わりの「学習シート」の復習（小テストと小レポートのために、毎回約20分）。 (2) 授業内容に関連した新聞スクラップを使い授業内容を更に深く、理解するために「深く読む、考える、調べる」ことを通して身近な福祉を知り、学ぶための事前学習に取り組む。授業内に新聞スクラップコピーを配布予定。それを使って、著書、専門雑誌、ネットでの検索等を図書館に行って調べる作業。個人差はあるが、調べる作業に約3時間。調べた内容を引用、抜粋等しながらレポート形式（タイプでも手書きの両方可）で最終的には提出する（発表するための事前学習として使用する）。 (3) ボランティアをしたことがある学生は、ボランティアをしたことがない学生に自分の経験を伝えるために与えられた質問用紙の内容についてボランティアの経験を思い出し、箇条書きにしてメモをしておく（約20分）。 						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 知識習得のための講義型形式とディスカッションやグループワークのアクティブラーニング型形式 (2) 視覚教材学習（DVD、著書、新聞スクラップ、写真） 						
評価基準と評価方法	まとめ（復習）テスト 40%、小レポート 15%、平常点（授業中のグループワークとディスカッション、新聞スクラップに関する事前学習と事後学習、視覚教材に関する提出物）45%						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> (1) 私語厳禁 (2) 積極的にグループワークとディスカッションに参加する学生の受講を希望する（書くこと、ディスカッションの苦手な学生の受講も期待する。不安な学生は授業の前後に相談可） (3) 事前に分かっている遅刻・早退は理由を添えて事前に担当者に伝える。 (4) スマートフォンや電子機器は授業中は指示がない限り、カバンの中に入れて受講。 (5) 欠席6回以上は、最終成績は「不可」の対象扱いとする。 (6) 最終成績評価は、提出物の提出、テストを受けた、ディスカッションに出た等の「～した」というだけでは、高い評価は得られない。その内容の具体的な説明、書き方、内容の出来栄による。 						

教科書	使用しない。
参考書	(1) 「その子をください」 鮫島浩二、アスペクト (2) 「星になったぼくのおとうと」 鮫島浩二、アスペクト (3) 「引退犬命の物語」 沢田俊子、学研

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	消費生活論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。 ②自らの消費者行動を振り返り、身の回りの変化に関心を高めることができる。 ③消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な知識を身につけることができる。 ④持続可能な社会の形成を考えるきっかけとなる。						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する） 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ） 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？） 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはどのように生まれるのか） 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか— 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果— 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？— 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？— 第13回 ステータス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？— 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー） 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】常に新聞やテレビを見て情報を集め、現状の問題点を考えておくこと。（60分） 【授業後】復習を必ず行い、知識をみにつけていくこと（60分）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ関連事業の代表として消費行動を分析した経験から家族の購買行動および意思決定の仕方、リスクマネジメントなどに対する事例研究をする。						
評価基準と評価方法	中間テスト（20％）、レポート（2回）（20％）、期末試験（60％）などによる総合評価						
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
教科書	松井剛・西川英彦編著『1からの消費行動』、2016年、中央経済社						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之					科目ナンバ-	Z61020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を摂ること、とは何か？）。						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、エネルギー代謝、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考える習慣を身につける。日常生活での健康維持にも関係のある問題として自ら考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物の消化と吸収のしくみ 2. 栄養分の循環と老廃物の排泄 3. 蛋白質の代謝 4. 糖質の代謝 5. 脂質の代謝 6. 薬物や異物の代謝 7. ミネラルの代謝 8. ビタミンの役割 9. ホルモン・自律神経の働きと恒常性 10. 食欲の調節機構 11. エネルギー代謝 12. 健康食品について 13. 生活習慣病 14. 飲酒と喫煙 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞などで報道される食糧問題、農業問題、食品安全性、等についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。授業で配布した資料を用いて、概ね1時間程度の復習を行う。必要に応じて、講義内容に関連した調査や自分の意見についてメモなどの提出を求める事がある。必要に応じて、講義内容に関連した調査や自分の意見についてメモなどの提出を求める事がある。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。主に資料（プリント）に記載された事項の説明を中心に授業を進めるが、自分の意見について簡単なメモの提出を求める事がある。						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
履修上の注意	参考図書としては、健康食品などについてのいわゆるハウツー本等ではなく、食品科学や栄養学の基礎的な解説書や教科書を読むことを薦める。厚生労働省、農林水産省、内閣府食品安全委員会等のホームページも参考になる場合がある。						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学（池田彩子、鈴木恵美子、脊山洋右、野口忠、藤原洋子 編、新スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1669-6）。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	諸芸術の交流／比較文化IA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A32010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀にかけての文芸の流れ						
授業の概要	20世紀初頭に始まった文学（小説）の変貌が、絵画、音楽、映画などの諸ジャンルの変貌と連動したものであったことを、有名作品を解説しながら跡付けて行く。						
到達目標	19世紀から20世紀にかけての文芸ジャンル変貌の流れを説明することができる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、授業計画の説明 2. 19世紀小説の特徴 (1) バルザック 3. (2) 写実主義の小説 4. (3) 自然主義の小説 5. 19世紀小説への疑問 (1) 全能の作者の問題 6. (2) アンドレ・ジッドの『贋金つかい』 7. (3) ニューヴォー・ロマン 8. 20世紀イギリスの小説 9. フランス印象派の絵画 10. 19世紀末のヨーロッパ社会と音楽 11. 第2次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 12. 第2次世界大戦以前の映画 13. ニューヴェルヴァーグ映画の革新 14. ニューヴェルヴァーグとフランス文学 15. まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から、できる限り外国の文芸（美術、音楽、小説、演劇etc）に触れる。(30時間)						
授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら、質疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	<p>平常点56%、テスト44%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。 						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神経・生理心理学／生理心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体はどこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	①脳神経系の構造及び機能について説明できる。 ②記憶、感情等の生理学的反応の機序について説明できる。 ③高次脳機能障害の概要について説明できる。 ④心と身体の関係がわかる現象や具体例を挙げ、それを生理心理学的に説明できる。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第5講 知覚の統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～癒しの脳科学～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー40%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容記述から授業への参加関与度を評価する。到達目標①②③に関する到達度の確認。 期末試験60%：到達目標④に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	251100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心の働きの基礎を学ぶ						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識である。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところでさまざまな行動として表れる。それゆえ、心と行動について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたりまえのように思っている心の働きの不思議について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 心の基本的な働きについて説明できる。 他者と自分の心についての理解が深まる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：「こころ」って何？ 対人関係の心理学(1)：他者から影響を受けるこころ 対人関係の心理学(2)：他者に影響を及ぼすこころ パーソナリティの心理学(1)：他者と私はどう違う？ パーソナリティの心理学(2)：「性格」って何？ 発達の心理学(1)：子どものこころ 発達の心理学(2)：大人のこころ 悩みの心理学(1)：こころのトラブルって何？ 悩みの心理学(2)：トラブルへの対処法 知覚の心理学：身の回りの世界を捉えるこころ 1. 認知の心理学(1)：記憶するこころ 2. 認知の心理学(2)：考えるこころ 3. 学習の心理学(1)：新しい行動を身につけるこころ 4. 学習の心理学(2)：行動を変化させるこころ 5. 授業のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には各回の授業テーマについて関連する文献などに目を通しておくこと（60分）。</p> <p>授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（60分）。</p>						
授業方法	講義を基本とするが、適宜、グループワークやグループディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	到達目標の達成度と、発言やディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度などの授業時における学びに取り組む姿勢とを総合的に評価する。評価の配点は、期末試験（到達目標の達成度を評価）70%、平常点（リアクションペーパー及び学びに取り組む姿勢を評価）30%とする。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	251100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心の働きの基礎を学ぶ						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識である。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところでさまざまな行動として表れる。それゆえ、心と行動について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたりまえのように思っている心の働きの不思議について学ぶ。						
到達目標	1. 心の基本的な働きについて説明できる。 2. 他者と自分の心についての理解が深まる。						
授業計画	1. オリエンテーション：「こころ」って何？ 2. 対人関係の心理学(1)：他者から影響を受けるこころ 3. 対人関係の心理学(2)：他者に影響を及ぼすこころ 4. パーソナリティの心理学(1)：他者と私はどう違う？ 5. パーソナリティの心理学(2)：「性格」って何？ 6. 発達の心理学(1)：子どものこころ 7. 発達の心理学(2)：大人のこころ 8. 悩みの心理学(1)：こころのトラブルって何？ 9. 悩みの心理学(2)：トラブルへの対処法 10. 知覚の心理学：身の回りの世界を捉えるこころ 11. 認知の心理学(1)：記憶するこころ 12. 認知の心理学(2)：考えるこころ 13. 学習の心理学(1)：新しい行動を身につけるこころ 14. 学習の心理学(2)：行動を変化させるこころ 15. 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献などに目を通しておくこと（60分）。 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること（60分）。						
授業方法	講義を基本とするが、適宜、グループワークやグループディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	到達目標の達成度と、発言やディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度などの授業時における学びに取り組む姿勢とを総合的に評価する。評価の配点は、期末試験（到達目標の達成度を評価）70%、平常点（リアクションペーパー及び学びに取り組む姿勢を評価）30%とする。						
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。						
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	中原 朝子					科目ナンバ-	Z51240
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーは、私たちが当たり前と思ってきた性に関する様々な思い込みを問い直す重要な概念である。「性」が社会的に構築されたものであるということを学問領域に持ち込む契機となったウーマン・リブの活動、そして女性学の成果を踏まえ、「性」をめぐる様々な社会問題、中でも家族や労働に関するジェンダーを中心に取り上げ、それにまつわる論争や政策の変遷を学修する。						
授業の概要	本授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられてきた性差）を、その社会がどのように認識し、意味づけているかを明らかにし、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているのかを見抜く視点を共有する。中でも、家族や労働におけるジェンダーを中心的に取り上げ、日本の家族および労働市場に、ジェンダーがどのように組み込まれているかを、家族政策および労働政策、職場の雇用管理を中心に検討する。						
到達目標	性をめぐる問題が、社会的に構築されたものであるということを理解できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価の方法等） 第2回 フェミニズムの思想 第3回 ウーマン・リブの活動 第4回 母性保護論争 第5回 主婦論争 第6回 家事労働論争 第7回 有償労働とジェンダー 第8回 無償労働とジェンダー 第9回 家計とジェンダー 第10回 家族政策とジェンダー 第11回 貧困・社会的排除とジェンダー（1） （貧困の概念：言説：計測方法） 第12回 貧困・社会的排除とジェンダー（2） （貧困の実態） 第13回 教育とジェンダー 第14回 災害とジェンダー 第15回 授業の全体のまとめとふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに生活の中で問題・話題になっている事柄について調べておくこと。授業で取り上げる文献を示すので、読んでおくのが望ましい。						
授業方法	前半の授業は、教員による資料を用いた講義形式の授業が中心となる。後半の授業は、講義形式の授業と共に、授業のテーマに応じて設定された課題について、グループ毎に課題を検討し発表する時間を設ける。						
評価基準と評価方法	課題提出（40%）、期末課題（50%）、平常点（10%）から、判断する。課題に対しての積極的な取り組み、期末課題、通常の授業への積極的参加（授業での質問やコメントシートの内容）から評価する。						
履修上の注意	授業中の私語は慎むこと。5回以上欠席した場合は単位認定をしない。						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と健康						
担当教員	西川 央江					科目ナンバ-	Z61010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性の心身の健康についての正しい知識と情報を得て、生涯にわたって女性の健康を維持増進させていくことについて理解する。						
授業の概要	健やかに生きるという事は、すべての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮留守事である。特に女性は妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、心身の両面から配慮が必要になってくる。本授業では、基礎知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康、さらには次世代の健康な育成についてさまざまな観点から考える。そして、学んだ正しい情報・知識を基に、女性としての自身の健康をより向上させる実際の能力を身につけることを学ぶ。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解を深めることができる【知識・理解】 2. 女性の健康の保持と増進に必要な知識・情報について理解を深めることができる【知識・理解】 3. 自分の健康の課題を見つけることができ、それに対して具体的な改善方法を実施できるようになる。【知識・理解・汎用的技能】						
授業計画	第1回 女性の健康の概念と基本理念（リプロダクティブ・ヘルス/ライフ） 第2回 生活習慣と女性の健康（①食事・排泄） 第3回 生活習慣と女性の健康（②運動・睡眠） 第4回 生涯を通じた女性の健康（①思春期と月経） 第5回 生涯を通じた女性の健康（②月経に関するトラブル） 第6回 生涯を通じた女性の健康（③妊娠・出産） 第7回 生涯を通じた女性の健康（④避妊・中絶） 第8回 生涯を通じた女性の健康（⑤性感染症予防） 第9回 生涯を通じた女性の健康（⑥子宮頸がん・乳がん・大腸がん） 第10回 生涯を通じた女性の健康（⑦ドメスティックバイオレンス） 第11回 生涯を通じた女性の健康（⑧性暴力被害） 第12回 生涯を通じた女性の健康（⑨タバコ・薬物） 第13回 生涯を通じた女性の健康（⑩女性アスリートの健康） 第14回 生涯を通じた女性の健康（⑪メンタルヘルス まとめ試験） 第15回 講義全体の学習内容の総復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスを参考に次の講義内容に関係する情報をメディアや文献から得る。そして、自分自身の健康状態を観察し、課題を見つける。（学習時間2時間） 授業後学習：講義内容を振り返りまとめる。そして、自分自身の健康を保持向上させる方法を実践する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：テーマごとに視聴覚教材を用いた講義を行う。テーマに対して、自分の女性としての健康課題を点検し、講義内容を参考に自分の女性としての健康の保持増進のために実施することを見出す。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60% 授業内での提出物40% まとめ試験：授業で扱った女性と健康についての課題と保持増進への理解度について評価する。到達目標（1）及び（2）に関する到達度の確認。 授業内での提出物：各回提出のアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：まとめ試験については、講義全体の学習内容の総復習時に講評する。アクションペーパーの記載内容に対して翌週の講義にコメントし、質問に対して解説する。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。自分の健康に関心を持ち、より健康になることを目指して健康管理に留意し、出席してください。						
教科書	テキストの指定はしない。講義時に資料を配布。						
参考書	講義に随時紹介						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	Z51260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示することができるようになる。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習として事前配布プリントの該当箇所を熟読してくること（1時間） 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと（1時間）						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師との対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。						
教科書	なし。						
参考書	・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法（第3版）」（有斐閣、2017年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	Z51260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示することができるようになる。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習として事前配布プリントの該当箇所を熟読してくること（1時間） 講義受講後は、ノート等を見直し復習を行うこと（1時間）						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師との対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。						
教科書	なし。						
参考書	・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法（第3版）」（有斐閣、2017年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性とメディア／女性論II						
担当教員	巽 真理子					科目ナンバ-	Z51250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアにおける女性や男性のイメージとジェンダー規範						
授業の概要	複雑化する現代社会においては、人と社会のかかわりや時代の変化を敏感に察知し、多様な課題にも目配りのできる資質や能力がますます求められている。本講義では、そのなかでも、ジェンダーに着目する。メディア（新聞、ニュース、雑誌、広告など）が女性や男性のイメージをどのように描いてきたか検証し、その裏にはどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。また、アニメやドラマ、広告などの具体的な映像などを鑑賞しながら考察する。						
到達目標	さまざまなメディアにおける女性や男性のイメージを考察し、それを取り巻くジェンダー規範を認識することにより、自分らしい生き方を選択していくための知識や視点を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メディアとジェンダーをどう学ぶか：メディアリテラシーという視点 第3回 マスメディアとジェンダー（1）職場としてのマスメディア 第4回 マスメディアとジェンダー（2）性別による取り上げられ方の違い 第5回 雑誌とジェンダー（1）雑誌のしくみ 第6回 雑誌とジェンダー（2）育児雑誌 第7回 雑誌とジェンダー（3）ファッション誌 第8回 雑誌とジェンダー（4）教育誌 第9回 映画とジェンダー（1）描かれる家族像 第10回 映画とジェンダー（2）母親と子育て 第11回 映画とジェンダー（3）生殖技術と身体の権利 第12回 アニメとジェンダー（1）描かれる女性像 第13回 アニメとジェンダー（2）メディアミックス戦略 第14回 ミニコミとジェンダー：ウーマンリブ～フェミニズムと男性運動 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メディアとジェンダーに関する問題は、社会問題として考えると同時に、「自分ごと」として捉えていくことが重要である。そのため授業時間外においても、1時間程度、関連する報道等について積極的に情報収集し、そこにどのようなジェンダー規範が含まれているかを考察すること。						
授業方法	講義形式。毎回、授業のテーマに合わせたワークシートを実施する。受講生がワークシートに書いた意見は次の授業で取り上げ、受講生で共有していく。						
評価基準と評価方法	期末テスト（60％）・ワークシートなどの平常点（40％）						
履修上の注意	私語厳禁。自分自身と関連づけて「脱常識」の視点で考え、積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。授業内容に関する質問は下記アドレスまで。 連絡先：mariko3112yousyo[at]gmail.com						
教科書	特になし						
参考書	巽真理子 2018 『イクメンじゃない父親の子育てー現代日本における父親の男らしさと〈ケアとしての子育て〉』 晃洋書房ほか、授業中に適宜指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子					科目ナンバ-	251040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業をより良く理解して自分の知識とするために、以下の予習と復習をしてきてください。 予習：テキストのなかの指定された章を読んで、指示されたテーマについて考えをまとめる(1時間)。 復習：授業で取り上げた絵本・冒険物語について、指定のフォームに要点をまとめる(1時間)。						
授業方法	講義形式 能動的に参加してもらうために、毎回の授業で以下のことを書いて提出してもらいます。それをふまえた解説と講義を行います。 1. 予習で指定された課題 2. 講義の内容について、指定された課題						
評価基準と評価方法	期末レポート50%、絵本レポート・冒険物語レポートと毎授業時に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
履修上の注意	1. 履修の対象者 児童文学に関心をもっている人を対象とします。 2. 履修上の注意 実授業数の三分の一を超えて欠席すると、受講資格を失います。 教員の連絡先または連絡方法：学習上の質問は授業終了後30分間、事前予約の上受け付けます。 テキストを必ず入手して授業に持ってきてください。						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子					科目ナンバ-	251040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クローディアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業をより良く理解して自分の知識とするために、以下の予習と復習をしてきてください。 予習：テキストのなかの指定された章を読んで、指示されたテーマについて考えをまとめる(1時間)。 復習：授業で取り上げた絵本・冒険物語について、指定のフォームに要点をまとめる(1時間)。						
授業方法	講義形式 能動的に参加してもらうために、毎回の授業で以下のことを書いて提出してもらいます。それをふまえて解説と講義を行います。 1. 予習で指定された課題 2. 授業の内容について、指定された課題						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポート・冒険物語レポートと毎授業時に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
履修上の注意	1. 履修の対象者 児童文学に関心をもっている人を対象とします。 2. 履修上の注意 実授業数の三分の一を超えて欠席すると、受講資格を失います。 教員の連絡先または連絡方法：学習上の質問は授業終了後30分間、事前予約の上受け付けます。 テキストを必ず入手して授業に持ってきてください。						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生活システムII (流通・マーケティング)						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識が身に付く） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント（WEB他） 第8回 広告のマネジメント（メディア他） 第9回 チャネル戦略 第10回 サプライチェーンのマネジメント 第11回 営業のマネジメント 第12回 顧客関係のマネジメント（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 顧客理解のマネジメント 第14回 ブランド構築のマネジメントと組織の在り方 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（60分） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。（60分）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし、具体的事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読 ④アクティブラーニングを積極的に取り入れる。						
教科書	石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社、2011年						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。自立、就労、恋愛などの身近なテーマ、また青年期に好発する精神疾患と心理療法的介入に関する臨床心理学的理論やモデルを紹介し、身近な素材や事例を用いて考え、理解を深めます。ワークや発表を通じて自らの考えや理解した内容を言語化し、その成果を共有します。						
到達目標	(1) 青年期に関連の深い諸課題について、臨床心理学的な観点から考え、説明することができる。【知識・理解】 (2) 授業を通じて得た理解を、自分自身や日常生活上の諸課題に応用できる、また、それを言語化し他者と共有できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 生涯発達における青年期 ～おとなになるってどういうこと？～ 第2回 青年期の親子関係 ～反抗期は必要？～ 第3回 青年期の恋愛(1) ～恋愛は必要？～ 第4回 青年期の恋愛(2) ～DV・ストーカーの心理～ 第5回 青年期の就活・就職(1) ～働くってどういうこと？～ 第6回 青年期の就活・就職(2) ～働くという社会参加～ 第7回 ニート・ひきこもりの心理(1) ～働かないってどういうこと？～ 第8回 ニート・ひきこもりの心理(2) ～働かないという社会参加～ 第9回 青年期の犯罪(1) ～受容され難い存在と表現～ 第10回 青年期の犯罪(2) ～精神鑑定というつながり～ 第11回 青年期の精神疾患(1) ～うつと自殺～ 第12回 青年期の精神疾患(2) ～統合失調症～ 第13回 青年期の精神疾患(3) ～心理療法というつながり～ 第14回 調査実践課題の発表 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の購読(1時間)。 授業後学習：課題(1時間)。						
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)。						
評価基準と評価方法	期末試験(持ち込み可：40%)：到達目標(1)に関する到達度の確認。 平常点(授業への参加・貢献、授業レポート、課題、素材カード 60%)：到達目標(2)に関する到達度の確認。 課題：①授業内ワークのまとめと発表、②活動実践のまとめと発表、③レポート作成、④素材カード ※①から③から1つ以上を選択すること。④は任意選択とする。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生物学入門／くらしと科学I						
担当教員	吉野 健一					科目ナンバ-	251190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性として健康で幸福な生活を送るための生物学を学ぶ						
授業の概要	人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学の知識は不可欠です。iPS細胞、クローン生物、BSE（牛海綿状脳症）、遺伝子組み換え食品、ワクチン、新型インフルエンザウイルス、性の多様性、乳がん、染色体異常など、報道やテレビ番組でよく見聞きする生物学や医学に関する身近なトピックスを取り上げて科学的に解説します。特に女性として健康で幸福な生活を送るために有用な生物学的・医学的知見を紹介しながら、より良い生活を送るために科学的な知識や客観的な思考力が大切であることを学びます。						
到達目標	人間も生物の一種であり、われわれ人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学的な知識は不可欠です。女性として健康で幸福な生活を送ることができるための一助となる基礎的な生物学の知識の理解を深め、予備知識のない人がわかるように説明できることを目標とします。また生物学と医学とは深い関連があり、生物学が人類の福祉に大きく貢献していることを理解し、健康に対する興味を生物学的な視点からより客観的かつ具体的なものとして意識することができることを目標とします。						
授業計画	第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か 第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴 第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう 第4回：新しい感染症を理解しよう。 第5回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう 第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か 第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ 第8回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史 第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう 第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう 第11回：性決定システムの多様性を理解しよう 第12回：クローンとiPS細胞を理解しよう 第13回：ヒトの初期発生を理解しよう 第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか 第15回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の授業で扱うテーマを参考書等を利用して予習する（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で示したテーマに関するニュース記事や類似の問題点を検索し、記事の内容やその背景を理解することによって、期末レポートの準備を行う（学習時間2時間）						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。毎回穴埋め形式のプリントを配布します。受講し、プリントにキーワードを書き込む作業をしながら、理解を深めてもらう形式です。						
評価基準と評価方法	授業内提出物75%：穴埋め形式のプリントに加え、講義の要点をまとめた短文のレポートの提出を義務付けています。授業1回につき5%。 期末レポート：25%。 単位の取得には10回以上の出席と期末レポートの提出が必須。授業内提出物の得点が0点の場合は欠席扱いにします。また私語などの他の受講生への迷惑行為が認められた場合は減点します。						
履修上の注意	(1) 履修条件 生物学や医学、健康に興味をもち、積極的に授業に参加する学生を対象とします。 (2) その他 私語や飲食、講義中のスマートフォンや携帯電話の操作、化粧など、他の受講生の聴講を妨げたり、不適切な行為は厳禁。 講義中の迷惑行為、不適切な行為、学生便覧に記載された受講マナーや校内ルール（講義室におけるスマートフォンの充電等）に対する違反が認められた場合は授業内提出物の点数を減点します。 13:40以降の入室および14:10以前の退室は欠席扱いとします。 座席位置に関しては教員の指示に従ってください。 代筆やスマートフォンの操作などの不正行為、類似答案、期末レポートにおける他の文献からのコピー＆ペーストが認められた場合は単位を認定しません。						
教科書	なし。ノート形式の小テスト答案用紙を毎回2部配布します。						
参考書	『これだけはおさえたい生命科学 身近な話題から学ぶ』武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1 『生物学の基礎知識』都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8 『初歩からの生物学』鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞「境界を生きる取材班」著、毎日新聞 ISBN978-4-620-321783						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材					科目ナンバ-	251030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないもので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	授業で取り上げた作品が古典とみなされる理由を説明できる。						
授業計画	<p>「移民・亡命」をテーマに世界の名作文学を紹介する。話の都合上、出版年はかなり前後する。</p> <p>導入</p> <p>第1回 授業の進め方、文学の解釈</p> <p>第2回 移民と亡命について。日本からの移民：北杜夫『輝ける蒼き空の下で』（1982、1986）</p> <p>虚構の移民</p> <p>第3回 無人島への植民：デフォー『ロビンソン・クルーソー』（1719）</p> <p>第4回 空想の文明との遭遇1：ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記 大人国、小人国』（1726）</p> <p>第5回 空想の文明との遭遇2：ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記 空飛ぶ岩、馬の国』（1726）</p> <p>移民の苦難</p> <p>第6回 アメリカの開拓時代1：ローラ・インガルス＝ワイルダー『大きな森の小さな家』（1932）</p> <p>第7回 アメリカの開拓時代2：ローラ・インガルス＝ワイルダー『大草原の小さな家』（1935）</p> <p>第8回 祖国のない民族：ヨーゼフ・ロート『放浪のユダヤ人』（1927）</p> <p>第9回 狭隘な国と植民：ハンス・グリム『土地なき民』（1926）</p> <p>亡命者の書いた作品</p> <p>第10回 亡命しない者：クラウス・マン『メフィスト』（1936）</p> <p>第11回 無差別爆撃からの避難民：ヘルマン・ケステン『ゲルニカの子供たち』（1939）</p> <p>第12回 創世記：トーマス・マン『ヨゼフとその兄弟』（1933-1943）</p> <p>第13回 革命家の末路：ペータ・ヴァイス『亡命のトロツキー』（1969）</p> <p>第14回 失われたアイデンティティ：アゴタ・クリストフ『悪童日記』（1986）</p> <p>第15回 強制労働：ヘルタ・ミュラー『息のブランコ』（2009）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業では毎回A4両面一枚に収まるだけしか作品を引用しない。作品の印象を知るのにそれでは不十分なので、予習か復習かは問わないが、書籍を手に取り各作品につき二時間程度は読む、あるいは映画・ドラマ化されたものを観るべきである。通読した場合には、授業を踏まえた感想文を書いて提出すると加点される。字数および提出回数は問わない。						
授業方法	講義で、各回に一作品を紹介する。毎回配布する感想用紙に、その回のテーマと作品名から連想することをまず書き残し、作品に触れて解説を聞いたのち、その感想と事前の連想とを比較しつつ感想文を記す。映画などを短時間鑑賞する場合もある。						
評価基準と評価方法	感想文で評価する。授業から学び得た事柄を記すことが期待される。前回の感想文をときどき紹介するので、評価基準はそれで知ることができる。希望者には評価の記された感想文を返却する。授業中に書く感想文は字数が限られるため、加えて長文の読書感想文を提出してもよい。受講者が多数の場合は試験の実施を検討する。						
履修上の注意	考えながら聴き、すでに有する知識や経験と関連させて理解しようと試みること。私語厳禁。						
教科書	文学作品の抜粋を毎回配布する。						
参考書	<p>武田良材 著『しがいないサラリーマンの1930-32年』郁文堂、ISBN978-4261073355</p> <p>ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653</p> <p>ビエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165</p> <p>トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	Z51080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対主義 2. 市民革命（イギリス革命、アメリカ独立革命） 3. 市民革命（フランス革命） 4. ウィーン体制 5. 諸国民の春 6. イタリアとドイツの統一 7. 帝国主義 8. 第1次世界大戦とロシア革命 9. ヴェルサイユ体制 10. 世界恐慌とナチスの台頭 10. 第2次世界大戦 11. 冷戦 13. ベトナムとアフガニスタン 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には高校の世界史の教科書などを参考に、次の授業で扱う時代の主要人物、事件について調べ、基礎知識を持っておくこと。また授業は欧米中心なので、その他の地域の歴史については授業外で自主的に調べ、欧米の歴史との関連を考えてほしい。また過去と現代のつながりについても考察してほしい。1時間の授業について前後4時間の授業外の学習が必要である。						
授業方法	講義が中心となるが、適宜、とくに現代とつながる問題について質問し、ディスカッションを求める。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
履修上の注意	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。10回以上出席していないと受験資格を認めない。遅刻2回で欠席1回扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	Z51080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対主義 2. 市民革命（イギリス革命、アメリカ独立革命） 3. 市民革命（フランス革命） 4. ウィーン体制 5. 諸国民の春 6. イタリアとドイツの統一 7. 帝国主義 8. 第1次世界大戦とロシア革命 9. ヴェルサイユ体制 10. 世界恐慌とナチスの台頭 10. 第2次世界大戦 11. 冷戦 13. ベトナムとアフガニスタン 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には高校の世界史の教科書などを参考に、次の授業で扱う時代の主要人物、事件について調べ、基礎知識を持っておくこと。また授業は欧米中心なので、その他の地域の歴史については授業外で自主的に調べ、欧米の歴史との関連を考えてほしい。また過去と現代のつながりについても考察してほしい。1時間の授業について前後4時間の授業外の学習が必要である。						
授業方法	講義が中心となるが、適宜、とくに現代とつながる問題について質問し、ディスカッションを求める。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
履修上の注意	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。10回以上出席していないと受験資格を認めない。遅刻2回で欠席1回扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	知覚・認知心理学／認知心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の知覚・認知の特徴やしぐみについて理解する						
授業の概要	知覚と認知はどちらも「知る」機能に関わっている。人は「こころ」を通して外界を知覚し、対象を、世界を、そして自分自身を認知している。この授業では、知覚や認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害について説明できる。 ②人の認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。 ③人の知覚や認知がいかに主観的なものであり、対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようにする。						
授業計画	第1講 知覚・認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～視覚のしぐみ～ 第4講 知覚3 ～色の不思議～ 第5講 知覚4 ～三次元の世界～ 第6講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第7講 記憶2 ～感覚記憶と短期記憶～ 第8講 記憶3 ～長期記憶～ 第9講 問題解決 ～サバイバルゲーム～ 第10講 知覚・認知の障害1 ～失認と色覚多様性～ 第11講 知覚・認知の障害2 ～認知症と記憶障害～ 第12講 知覚・認知の障害3 ～精神障害と認知～ 第13講 知覚・認知の障害4 ～認知療法～ 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。適宜、実習形式による体験学習を取り入れる。授業の最後にリアクションペーパーの記述を求める。リアクションペーパーに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー40%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容記述から授業への参加関与度を評価する。到達目標③に関する到達度の確認。 期末試験60%：到達目標①②③に関する到達度の確認。試験結果の講評は15講で行う。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	坂元 仁					科目ナンバ-	251200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	地球史、生命史、人類史を辿り、自然観および環境問題について考える。						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されている。それらを理解し、考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題の取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察する。						
到達目標	生命の歴史、人類の歴史、科学技術史を辿って地球環境と人間の関係の変遷を様々な切り口で学び知り、深い人間理解につなげる。“自然の中に人間がいる”という自然観・人間観に立ち返り、現代社会が抱える諸問題・危機に対して広い視点から俯瞰して、プラス面・マイナス面を分析でき、自分の意見を論理的に記述できる。						
授業計画	第1回 講義のガイダンスとノートの取り方について 第2回 生命の誕生と地球環境－地球の誕生、最初の生命とは、シアノバクテリアと酸素 第3回 生命進化の大爆発－細胞、遺伝子、真核生物の誕生、カンブリア期の進化爆発 第4回 地球環境と大量絶滅の謎－5回繰り返された大量絶滅、人類による第6の絶滅 第5回 人類の誕生と進化－ホモ・サピエンスとネアンデルタール人、道具・言語・意識の芽生えの謎 第6回 農耕と家畜化－農耕はなぜはじまったのか、初期の栽培植物と家畜について 第7回 道具：鉄器から産業革命を経て－古代の物語のなかの環境破壊、自然科学の発達 第8回 医学の発達－医学の歴史、なぜ病気は起こるのか？ 第9回 地球環境と人口・食糧問題－世界人口と高齢化社会、生態系から考える 第10回 地球温暖化－人類活動要因説と自然環境要因説 第11回 地球資源の枯渇とエネルギー問題－再生可能エネルギーと次世代資源の探索 第12回 環境汚染と環境破壊－公害（水俣病と原発事故） 第13回 水資源と自然環境浄化への取り組み－美味しい水、水辺の生態系を育む 第14回 地球規模化する感染症－感染症の歴史、インフルエンザ、多剤耐性菌の出現 第15回 地球環境と人類の未来－エコロジー、持続可能な社会に向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義を通してノートを取る能力（キーワードをメモする、要約する）、自分でもさらに調べてみる能力を養っていくこと（学習時間：30分）。普段のニュース（新聞、テレビ、インターネット、書籍）から環境問題に注意を向け、好奇心を持って調べ、批評的に考えてみる（学習時間：30分）。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題レポート40%（選択した課題に対して背景説明、問題提起、その問題への対策案に関する論理的記述を評価する） 平常点60%（受講態度30%、小テスト30% 授業毎にリアクションペーパー（小レポート）を課し、評価する）						
履修上の注意	私語厳禁。						
教科書	講義時の配布資料をテキストとする。						
参考書	クリストファー・ロイド（著）「137億年の物語 宇宙が始まってから今日までの全歴史」（文藝春秋） 西本昌司（著）「地球のはじまりからダイジェスト 地球のしくみと生命進化の46億年」（合同出版株式会社） ジャレド・ダイヤモンド（著）「銃・病原菌・鉄——1万3000年にわたる人類史の謎（上・下）」（草思社、2000年）その他、適時指示。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	東西芸術の文化史／比較文化IB						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	A32020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で生まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なもの同士が出会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。「西」はどのようにオリエント、東方、東洋と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げ、検証する。						
到達目標	わたしたちのものの見方が自分たちが生まれ育った文化・伝統によって裏打ちされていること、異なる文化・伝統との出会いがわたしたちのものの見方を変化させてきたこと、そしてそのような出会いが今後の新たな文化的展開へつながりうることに気づくことができる。						
授業計画	第1回 新しいものが生まれる時 第2回 キリシヤとオリエント 第3回 キリシヤ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 異教徒たち 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクー 第9回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第10回 他者と出会う 第11回 ジャポニズムと印象主義 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間1.5時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った作品・作家について、各自がさらに掘り下げて調べてみること（学習時間1.5時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することもあり。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もあり。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子					科目ナンバ-	Z51020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学作品を読むことを通して、現代に通じている日本の文化の独自性を考察する。						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを説明できる。【知識・理解】 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを説明できる。【知識・理解】 世界的な視点から見た日本文化の独自性について、考えを述べるができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学 第2回：漢字で日本語を表すこと 1－古事記・日本書紀 第3回：漢字で日本語を表すこと 2－万葉集 第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図 第5回：七五のリズム－万葉集・古今集・今様 第6回：暦と季節感 1－古今集・新古今集の春夏 第7回：暦と季節感 2－古今集・新古今集の秋冬 第8回：恋の発端 1－伊勢物語 第9回：恋の発端 2－源氏物語 第10回：日記という文化 1－漢文日記・土佐日記 第11回：日記という文化 2－蜻蛉日記・紫式部日記 第12回：記録する意志－枕草子・方丈記 第13回：日本文学史概観Ⅰ 第14回：日本文学史概観Ⅱ 第15回：まとめ－世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習として、授業内で指示したテーマについて、辞書等で調べ、授業内容の簡単な報告文を作成すること（学習時間30分程度）。 それを、次回授業時に書いて提出してもらおう。あるいは口頭で発表してもらおう。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめやワークシート（リアクションペーパー）、または小テスト等を課す。 第14回授業時に課すレポートに基づいたプレゼンテーションを、第15回授業時に代表者に行ってもらい、それについてディスカッションする。						
評価基準と評価方法	平常点（リアクションペーパー、小テスト）60% 期末レポート40% 現代日本文化と古典文学にかかわる期末レポートを第14回授業時に提出してもらい、第15回授業時に返却する。						
履修上の注意	古典の文法的知識は必要としない。 2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 授業中の携帯電話、スマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。 毎時、前回授業に関するリアクションペーパー等を提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子					科目ナンバ-	Z51020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学作品を読むことを通して、現代に通じている日本の文化の独自性を考察する。						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを説明できる。【知識・理解】 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを説明できる。【知識・理解】 世界的な視点から見た日本文化の独自性について、考えを述べるができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学 第2回：漢字で日本語を表すこと 1－古事記・日本書紀 第3回：漢字で日本語を表すこと 2－万葉集 第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図 第5回：七五のリズム－万葉集・古今集・今様 第6回：暦と季節感 1－古今集・新古今集の春夏 第7回：暦と季節感 2－古今集・新古今集の秋冬 第8回：恋の発端 1－伊勢物語 第9回：恋の発端 2－源氏物語 第10回：日記という文化 1－漢文日記・土佐日記 第11回：日記という文化 2－蜻蛉日記・紫式部日記 第12回：記録する意志－枕草子・方丈記 第13回：日本文学史概観Ⅰ 第14回：日本文学史概観Ⅱ 第15回：まとめ－世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習として、授業内で指示したテーマについて、辞書等で調べ、授業内容の簡単な報告文を作成すること（学習時間30分程度）。それを、次回授業時に書いて提出してもらおう。あるいは口頭で発表してもらおう。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめやワークシート（リアクションペーパー）、または小テスト等を課す。 第14回授業時に課すレポートに基づいたプレゼンテーションを、第15回授業時に代表者に行ってもらい、それについてディスカッションする。						
評価基準と評価方法	平常点（リアクションペーパー、小テスト）60% 期末レポート40% 現代日本文化と古典文学にかかわる期末レポートを第14回授業時に提出してもらい、第15回授業時に返却する。						
履修上の注意	古典の文法的知識は必要としない。 2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 授業中の携帯電話、スマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。 毎時、前回授業に関するリアクションペーパー等を提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の歴史						
担当教員	李 芝映					科目ナンバ-	Z51070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代にいたる日本歴史の概説						
授業の概要	この授業では、古代から現代まで、日本の歴史を学びます。各時代の社会・政治・経済システムがいかに変わっていったのかを概観します。その上で、それぞれの時代の人々の生き方を紹介しながら、多様な観点からその時代を理解していきます。通史的な観点から、社会・政治・経済の構造がどう変わって来たのかを考察することを通じて、現代社会の構造を理解・分析する姿勢を身につけることを目指します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本史に関する知識を習得する。 2. 政治・社会・経済構造の歴史的変遷課程を理解する。 3. 歴史の理解を通じて現代に対する理解を深める。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション：講義の概要と進め方、成績評価の方法 第2回 古代時代①：農耕社会の出現と古代国家の成立 第3回 古代時代②：律令国家の成立 第4回 中世時代①：荘園経済の発達 第5回 中世時代②：武家の登場 第6回 戦国から統一へ 第7回 江戸時代①：幕藩体制 第8回 江戸時代②：町と村の経済と民衆 第9回 江戸時代③：町と村の経済と武士 第10回 開国と幕末の動揺 第11回 明治時代①：文明開化と近代国家 第12回 明治時代②：自由民権と立憲国家 第13回 大正時代：新しい社会への願望 第14回 昭和時代①：戦争と社会 第15回 昭和時代②：戦後の政治と社会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	期末レポートのテーマを念頭に置きながら、各回の授業で紹介する参考資料を中心として、自学自習してください。（学習時間：4時間）						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・授業の内容と関連のある主題を提示し、それについてディスカッションする。 						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の小レポート(30%)：授業の内容と関連のある主題を提示し、それについてディスカッションする。そしてそのディスカッションの内容をまとめて提出する。 ・期末レポート(70%)：日本史に関する研究論文を読んでレポートを書く。研究論文の紹介及びレポート作成については授業中に説明する。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は古代から現代までの日本歴史の概説です。各時代の変遷課程を中心として講義します。 ・出席回数数の1/3以上欠席した場合は、期末レポートを提出することができません。 						
教科書	各回の授業で資料を配布します。						
参考書	各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶ／日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	<p>平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。</p> <p>本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。【知識・理解】</p> <p>平安貴族の暮らしと文化の特徴を具体的に説明することができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 王朝人の住まい</p> <p>第2回 男性の装束</p> <p>第3回 女性の装束</p> <p>第4回 装い(化粧・整髪など)</p> <p>第5回 貴族の食事</p> <p>第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え)</p> <p>第7回 貴族の宮仕え(官位官職)</p> <p>第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など)</p> <p>第9回 恋愛と結婚</p> <p>第10回 算賀・葬送</p> <p>第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など)</p> <p>第12回 祭礼(賀茂の祭など)</p> <p>第13回 貴族の教養</p> <p>第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：平安時代の文化について興味を持ち、それらが扱われた資料や書籍を読む。(1時間)</p> <p>授業後学習：授業で学んだ平安時代の文化や関連する事項について要点を確認、整理する。(1時間)</p>						
授業方法	講義(平安時代の文化について考察したことについてディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。)						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 70%</p> <p>小テスト 20%</p> <p>取り組みに対する意欲・関心などの姿勢 10%</p>						
履修上の注意	<p>毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。</p> <p>期末試験だけでなく、小テストも実施する。</p> <p>3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。</p>						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文学と美術工芸／日本文化を学ぶA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な作品を生み出して来た。例えば、美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人歌集』・『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や国宝『源氏物語絵巻』・『伊勢物語絵巻』などの絵巻に、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について理解しやすいように、複製を提示したり、パソコンやDVDの画像をスクリーンに映したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>平安文学を享受した美術・工芸について理解し、説明することができる。【知識・理解】</p> <p>平安文学を享受した美術・工芸の特徴を分かりやすく説明することができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説</p> <p>第2回 屏風歌と屏風絵</p> <p>第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など）</p> <p>第4回 国宝『源氏物語絵巻』</p> <p>第5回 『西本願寺本三十六人集』</p> <p>第6回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』</p> <p>第7回 古筆切と手鑑</p> <p>第8回 冷泉家の至宝</p> <p>第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など）</p> <p>第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行</p> <p>第11回 『平家納経』などの装飾経</p> <p>第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』</p> <p>第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など）</p> <p>第14回 古典文学をモチーフとした調度や装束</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた資料を読む。（1時間）</p> <p>授業後学習：授業で学んだ美術・工芸品、また、それに影響を与えた古典作品について要点を確認、整理する。（1時間）</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>書籍や絵巻、屏風などを書誌的に理解できるよう、ミニチュア作りにも取り組む。</p> <p>平安文学の影響を受けた美術・工芸品についてディスカッションやプレゼンテーションすることにも取り組む。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験（70%）</p> <p>小テスト（10%）</p> <p>取り組みに対する姿勢（20%）</p>						
履修上の注意	<p>毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。</p> <p>3分の2以上の出席がなければ、試験を受ける資格はないものとする。</p>						
教科書	<p>毎回、プリントを配付する。</p>						
参考書	<p>授業中に提示する。</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人間関係論						
担当教員	小西 直喜					科目ナンバ-	251120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学から考える人間関係						
授業の概要	人は家族や恋人、友人など様々な関係を持ち、日々コミュニケーションを行っている。そのような人間関係を結んだり、維持したりしていく背景には様々な「こころ」の働きが関わっている。本講義では社会心理学的な視点から、人と人のコミュニケーションがどのような「こころ」の仕組みに支えられているのかについて解説する。						
到達目標	1. 人間関係にまつわる社会心理学的な知見を説明できるようになる。【知識・理解】 2. 自分の身の回りの人間関係を、社会心理学的な視点から考えることができるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション:人間関係をどのように研究するか 第2回 自己呈示・自己開示 第3回 親密な人間関係(恋愛) 第4回 対人魅力(友人関係) 第5回 協力行動 第6回 信頼 第7回 他者理解1:他者との感情の共有 第8回 他者理解2:マインドリーディング 第9回 他者への思いやり 第10回 ソーシャル・ネットワーク1:社会的排斥 第11回 ソーシャル・ネットワーク2:ソーシャル・サポート 第12回 集団意思決定 第13回 リーダーシップ 第14回 マスメディア・インターネット 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前:指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。(学習時間:2時間) 授業後:授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義を中心に、時に心理学調査を体験して頂きます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出して頂きます。						
評価基準と評価方法	ミニレポート45%・試験55%とします。						
履修上の注意	授業に関する質問は随時受け付けます。 授業中・授業前後に直接質問する、ミニレポートで質問する、連絡先にメールを送る、等のどの方法で行って頂いても構いません。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子(著)「社会心理学(New Liberal Arts Selection)」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 亀田 達也・村田 光二(著)「複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間—改訂版」有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12418-9 3. 北村 英哉・大坪 庸介(著)「進化と感情から解き明かす社会心理学」有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-1 2466-0 4. 北村 英哉・内田 由紀子(編)「社会心理学概論」ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1059-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特徴を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる【汎用的技能】 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べるができる【知識・理解】 3) 神戸のファッション文化を説明することができる【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧品 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	講義： ①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。 ③テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	レポート70%：阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。 課題30%：阪神間の地図を描く課題とレジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明することができること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の洗浄理論を説明することができる。 ・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 ・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。 						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル、期末試験 第15回 試験の復習、衣料品の品質管理（ゲストスピーカー）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（30分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD、ゲストスピーカーによる講義、ディスカッション等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40％、試験60％ 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 ・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。 ・着用目的に合った繊維素材を選択することができる。 						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（90分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD、ディスカッション等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40%、試験：60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	752310
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化しよう。						
授業の概要	本講義では、文化人類学の古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を身につけていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学の学説史と民族誌の初歩的知識を理解できること【知識・理解】。 2. 近代的な西洋中心主義の特徴と限界を簡潔に説明できること【知識・理解】。 3. 多様な異文化に触れながら自文化の特徴を相対化できること【知識・理解】。 						
授業計画	第1回 ガイダンス：文化人類学のイメージって？ 第2回 自文化中心主義と文化相対主義の違いは？ 第3回 親族構造の変容と進化主義のつながりは？ 第4回 民族誌の古典に挑戦(1)『男性と女性』 第5回 民族誌の古典に挑戦(2)『タテ社会の人間関係』 第6回 民族誌の古典に挑戦(3)『想像の共同体』 第7回 近代的西洋中心主義をどう相対化するか？ 第8回 映像にみる日本の多様性(1) 在日コリアン 第9回 映像にみる日本の多様性(2) アイヌ民族 第10回 映像にみる日本の多様性(3) 琉球・沖縄 第11回 オリエンタリズム×性役割分業とは？ 第12回 観光人類学で日本列島を振り返ると？ 第13回 グローバル化に適した移民政策とは？ 第14回 文化人類学の実践：グループ発表と相互評価 第15回 まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者一人ひとりが自分の物語をテキストとして考察する（学習時間：5時間）。 2. 今の日本の時事問題に隠れた文化人類学的課題を発見する（学習時間：5時間）。 3. 期末レポートの作成・発表・質疑に楽しみながら取り組む（学習時間：10時間）。 						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では多様な視聴覚教材を使って学生が議論する。 3. 後半では発表や質疑といったグループワークを行う。 						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など）。 2. レポート60点（現代日本の文化事象を批判的に分析する）。 						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で他の参加者に迷惑をかけるようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。 						
教科書	とくに指定せず、必要な資料を配付する。						
参考書	『男性と女性』 マーガレット・ミード著、田中寿美子・加藤秀俊訳、東京創元社、9784488006631 『タテ社会の人間関係』 中根千枝 講談社、9784061155053 『想像の共同体』 ベネディクト・アンダーソン著 白石隆・白石さや訳、リブロポート、9784886115089						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z51140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 宅老所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（60分）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う 【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の高齢者事業本部長や高齢者総合福祉施設の館長として、高齢者福祉の現状を伝え、グループワークを通してボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを「優しき挑戦者たち」」 （大熊由紀子・2008年・ぶどう社） 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 （山口 宰・2013年・聖公会出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z51140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 宅老所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（60分）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う 【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の高齢者事業本部長や高齢者総合福祉施設の館長として、高齢者福祉の現状を伝え、グループワークを通してボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを「優しき挑戦者たち」」 （大熊由紀子・2008年・ぶどう社） 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 （山口 宰・2013年・聖公会出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	マーケティング論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識が身に付く） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント（WEB他） 第8回 広告のマネジメント（メディア他） 第9回 チャンネル戦略 第10回 サプライチェーンのマネジメント 第11回 営業のマネジメント 第12回 顧客関係のマネジメント（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 顧客理解のマネジメント 第14回 ブランド構築のマネジメントと組織の在り方 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（60分） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。（60分）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的な事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読						
教科書	石井淳蔵・廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社、2011年						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	752300
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	西ヨーロッパ中世世界の成立について						
授業の概要	西ヨーロッパ中世世界成立についての諸説を、ピレンヌ理論を中心に検討する。						
到達目標	すでに明らかになったことを暗記するのではなく、通説を批判し新しい歴史像を構築するという歴史学の営みを理解する。西ヨーロッパ世界の成立について検討することによって、ヨーロッパとは何かについての理解を深める。						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 日本史とヨーロッパ史の時代区分について 第3回 中国史の時代区分について 第4回 ゲルマン民族大移動期の概略 第5回 ピレンヌ理論の概略 第6回 ピレンヌによる民族移動以前の古代世界 第7回 民族移動と古代世界 第8回 イスラム教の成立と発展 第9回 イスラム侵入と地中海商業 第10回 イスラム侵入の西欧における政治的影響 第11回 ピレンヌ批判（デネット・ジュニア） 第12回 ピレンヌ批判（ステューレ・ポーリン） 第13回 ポーリン批判 第14回 古代から中世へ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	高校の世界史の教科書を見直し、歴史の大まかな流れを確認しておくこと。登場する歴史的人物や歴史家、授業で用いられる歴史学の専門的語句について、自主的に辞書等で調べておくこと。1時間の授業について前後を合わせて4時間の学習を求める。						
授業方法	講義が中心であるが、適宜、学生の考えを質問し、ディスカッションを求めたい。それによって歴史には様々な見方があることが確認できると思うので、しっかり意見を述べてもらいたい。						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受験資格を認めない。遅刻2回で1回の欠席扱いとする。※質問は授業の前後に受け付けます。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	アンリ・ピレンヌ『ヨーロッパ世界の誕生』（中村宏・佐々木克巳訳）、創文社。 ピレンヌ他『古代から中世へ』（佐々木克巳編訳）、創文社。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	リスクマネジメント論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	752370
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、教育、仕事などの身近な問題をテーマに「リスク」について社会学的に捉えていく						
授業の概要	<p>「備えあれば憂いなし」「君子危うきに近づかず」これらの格言は、リスク（人間の生命・財産を危険にさらす可能性）に対する対処方法を人々に自覚させる。実際、我々の生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。一方、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺のように、大きなリターンは大きなリスクをとることによってしか得られない場合もある。このように、リスクを適切に認知、受容、分析、評価することは現代社会に生きる我々にとって非常に重要なこととなっている。</p> <p>この授業では、リスクマネジメントに関する基礎的な知識を学び、受講者が生活の中でのリスクマネジメントを身につけることを目指す。</p>						
到達目標	<p>(1) リスクに対する適切な知識を得るための情報収集ができる。【知識・理解】</p> <p>(2) リスクに対する判断に基づいて、行動を起こすことができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) リスクの判断や意見を他人に伝え、他人のリスクの判断や意見を聴取できる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. イントロダクション：リスクマネジメントとは 02. リスク社会の進展①－マクロの視点－ 03. リスク社会の進展②－ミクロの視点－ 04. 教育とリスク①－経済問題－ 05. 教育とリスク②－学力問題－ 06. 子どもを取り巻くリスク①－貧困－ 07. 子どもを取り巻くリスク②－健康、安全－ 08. 労働とリスク①－学校から社会への移行－ 09. 労働とリスク②－キャリア形成－ 10. スポーツとリスク 11. 情報化とリスク 12. 国際化とリスク 13. 環境リスク 14. 災害リスク 15. リスクとの向き合い方 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメントに関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・ 授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分） 						
授業方法	講義を中心に、必要に応じてディスカッションを行う						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題試験70%：授業で扱ったリスクマネジメントに対する理解度、リスクに対する自らの興味・関心の明確性、具体性について評価するとともに、到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・ レポート30%：講義内容についてのコメント、質問の内容記述の的確性を評価するとともに到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席及び授業への参加度重視。 ・ 欠席した場合は、必ず相談すること 						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学概論A／臨床心理学A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	P1201A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何かについて、代表的な理論を学ぶことを通して、その歴史的や特徴について考える。						
授業の概要	様々な臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、臨床心理学の成り立ちについて理解する。そして具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学という学問の成り立ちや、特徴、基本的な概念について説明できる。【知識・理解】 2. 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。【知識・理解】 3. 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】 						
授業計画	第1回：オリエンテーション－臨床心理学とは何か 第2回：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 第3回：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 第4回：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 第5回：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 第6回：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 第7回：臨床心理学の対象②：人格障害 第8回：臨床心理学の対象③：発達障害 第9回：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 第10回：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 第11回：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 第12回：臨床心理学的アセスメント 第13回：臨床心理行為と倫理 第14回：まとめと試験 第15回：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：第1回は「臨床心理学」、第2回は「精神分析」、など）（学習時間：90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理しておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標3の達成度確認 期末試験（70%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 期末試験に関しては第15回に解答例を配布するとともに解説を行う。						
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	下山晴彦（編）（2009）『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房。 ISBN：978-4623054350						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学概論B／臨床心理学B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P1201B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。【知識・理解】 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第4回：児童期の心理学的特徴 第5回：児童期に生じやすい心理学的問題 第6回：思春期の心理学的特徴 第7回：思春期に生じやすい心理学的問題 第8回：青年期の心理学的特徴 第9回：青年期に生じやすい心理学的問題 第10回：成人期の心理学的特徴 第11回：成人期に生じやすい心理学的問題 第12回：老年期の心理学的特徴 第13回：老年期に生じやすい心理学的問題 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心のある心理学的問題について調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験（60%）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20%）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点（20%）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						